

平成27年度

市原市内遺跡発掘調査報告

椎津城跡（五霊台地区）

市原条里制遺跡（古市場川端地区）

海士遺跡群・蟻木城跡

姉崎台城跡

椎津向原遺跡（第3地点）

2016

市原市教育委員会

平成 27 年度

市原市内遺跡発掘調査報告

しいづじょうあと ごりょうだい
椎津城跡（五霊台地区）

いちはらじょうりせい ふるいちばかわばた
市原条里制遺跡（古市場川端地区）

あま ありきじょうあと
海士遺跡群・蟻木城跡

あねさきだいじょうあと
姉崎台城跡

しいづむかいばら
椎津向原遺跡（第 3 地点）

2 0 1 6

市原市教育委員会

例 言

- 1 本書は、国庫及び県費の補助を受けて、市原市教育委員会が主体となり実施した、市内に所在する遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査及び整理作業・報告書刊行は、市原市教育委員会生涯学習部ふるさと文化課埋蔵文化財調査センターが実施した。
- 3 本書所収の調査は以下のとおりである。所在地等の諸情報は巻末の報告書抄録に記載した。
 - (1) 椎津城跡（五霊台地区）（調査コード セ534） 確認調査212㎡／2,015㎡
調査期間：平成27年1月6日～1月29日 担当 近藤 敏
 - (2) 市原条里制遺跡（古市場川端地区）（調査コード セ536） 確認調査101.24㎡／1,189㎡
調査期間：平成27年6月16日～6月26日 担当 北見一弘
 - (3) 海土遺跡群・蟻木城跡（調査コード セ537） 本調査42㎡
調査期間：平成27年7月7日～7月30日 担当 小川浩一
 - (4) 姉崎台城跡（調査コード セ538） 確認調査49.8㎡／498.8㎡
調査期間：平成27年12月7日～12月16日 担当 北見一弘
 - (5) 椎津向原遺跡（第3地点）（調査コード セ540） 確認調査52㎡／520.62㎡
調査期間：平成27年12月17日～12月22日 担当 小川浩一
- 4 整理作業・本文執筆は各担当が行い、編集は鶴岡英一が行った。
- 5 各遺跡の調査に際し、基準点測量を実施したのは姉崎台城跡のみである。これ以外の遺跡の図中に示した座標値及び北方位は、地形図等から求めたもので、厳密なものではない。また、水準は近隣の既知点から求めて使用している。

なお、各遺跡全体図中に記した世界測地系座標値は、国土地理院測量計算サイトの世界測地系座標変換（Web版TKY2JGD Ver.1.3.80）によって求めた数値である。
- 6 椎津城跡（五霊台地区）は昨年度末に調査を行ったため、本年度の整理・報告とした。また、本年度は、掲載遺跡以外に山新遺跡（永津前地区第2地点）及び椎津城跡の発掘調査を実施したが、いずれも平成28年1月以降の調査であるため、来年度の整理・報告とする。

本文目次

1 調査遺跡の位置と概要	1
2 椎津城跡（五霊台地区）	2
3 市原条里制遺跡（古市場川端地区）	7
4 海土遺跡群・蟻木城跡	12
5 姉崎台城跡	18
6 椎津向原遺跡（第3地点）	22

挿 図 目 次

Fig. 1	調査遺跡の位置	1
Fig. 2	椎津城跡(五霊台地区)周辺地形図	2
Fig. 3	椎津城跡(五霊台地区)トレンチ配置図	3
Fig. 4	椎津城跡(五霊台地区)1~8トレンチ断面図	4
Fig. 5	椎津城跡(五霊台地区)9~13トレンチ断面図	5
Fig. 6	椎津城跡(五霊台地区)出土遺物実測図	6
Fig. 7	市原条里制遺跡(古市場川端地区)周辺地形図	8
Fig. 8	市原条里制遺跡(古市場川端地区)トレンチ配置図・平面図(1)・断面図(1)	9
Fig. 9	市原条里制遺跡(古市場川端地区)平面図(2)・断面図(2)	10
Fig. 10	市原条里制遺跡(古市場川端地区)出土遺物実測図	11
Fig. 11	海士遺跡群・蟻木城跡周辺地形図・調査範囲図	13
Fig. 12	海士遺跡群・蟻木城跡平面図・断面図	14
Fig. 13	海士遺跡群・蟻木城跡出土遺物実測図(1)	16
Fig. 14	海士遺跡群・蟻木城跡出土遺物実測図(2)	17
Fig. 15	姉崎台城跡周辺地形図(1)・土層柱状図・出土遺物実測図	19
Fig. 16	姉崎台城跡周辺地形図(2)	20
Fig. 17	姉崎台城跡トレンチ配置図	21
Fig. 18	椎津向原遺跡(第3地点)周辺地形図・全体図	23
Fig. 19	椎津向原遺跡(第3地点)トレンチ配置図・断面図・出土遺物実測図	24

表 目 次

Tab. 1	貝層サンプル内容物集計	10
Tab. 2	貝類出土量集計	10
Tab. 3	ハマグリ計測値集計	10
Tab. 4	出土遺物観察表	25

図 版 目 次

PL. 1	遺構	椎津城跡(五霊台地区)
PL. 2	遺構	市原条里制遺跡(古市場川端地区)
PL. 3	遺構	海士遺跡群・蟻木城跡
PL. 4	遺構	姉崎台城跡
PL. 5	遺構	椎津向原遺跡(第3地点)
PL. 6	遺物	市原条里制遺跡(古市場川端地区)、海士遺跡群・蟻木城跡
PL. 7	遺物	椎津城跡(五霊台地区)、市原条里制遺跡(古市場川端地区)、椎津向原遺跡(第3地点)
PL. 8	遺物	市原条里制遺跡(古市場川端地区)、海士遺跡群・蟻木城跡
PL. 9	遺物	海士遺跡群・蟻木城跡、姉崎台城跡

1 調査遺跡の位置と概要

平成27年度は、市原条里制遺跡（古市場川端地区）、海士遺跡群・蟻木城跡、姉崎台城跡、椎津向原遺跡（第3地点）、山新遺跡（永津前地区第2地点）及び椎津城跡の6か所の発掘調査を行い、平成27年12月までに発掘調査を行った4遺跡と、平成26年度末に調査を行った椎津城跡（五霊台地区）について、今回報告する。調査遺跡はいずれも市の北部に位置し、調査原因は、宅地造成が2か所、集合（長屋）住宅建設が2か所、個人住宅建設が1か所である。

椎津城跡は、水陸の交通の要衝に位置し、この城を巡って激しい攻防戦が繰り返された。房総の戦国史を語る上で欠かせない城郭で、主郭周辺が平成27年7月3日付けで市原市指定文化財（史跡）に指定された。調査区は城跡の南端に位置し、溝状遺構によって区画された墓域が検出された。

市原条里制遺跡は、市原台地下の低地部に位置する。調査区は遺跡北端に当たる村田川下流域の自然堤防上に位置し、中世後期以降の溝状遺構や近世の土坑が検出された。

海士遺跡群・蟻木城跡は、養老川中流域右岸の微高地上に位置する。近年、遺跡周辺で発掘調査が数例行われ、弥生時代から古墳時代にかけての遺構が濃密に分布することが明らかになりつつあるが、今回の調査により、遺構の時期が奈良・平安時代にまで及ぶことが確認された。

姉崎台城跡の調査区は、姉崎古墳群中最大規模の前方後円墳で、千葉県指定史跡の姉崎天神山古墳に隣接する。今回の調査では、姉崎天神山古墳や姉崎台城跡に直接つながる成果は得られなかったが、円筒埴輪片の出土から、周囲に埴輪を伴う古墳が存在する可能性が高まった。

椎津向原遺跡は、過去に2度の確認調査が行われ、古墳時代後期を主体とする集落跡が検出されている。今回の調査区からも同時期の遺構が検出され、遺跡範囲の北西縁辺部にまで、当該期の集落跡が展開していることが確認された。

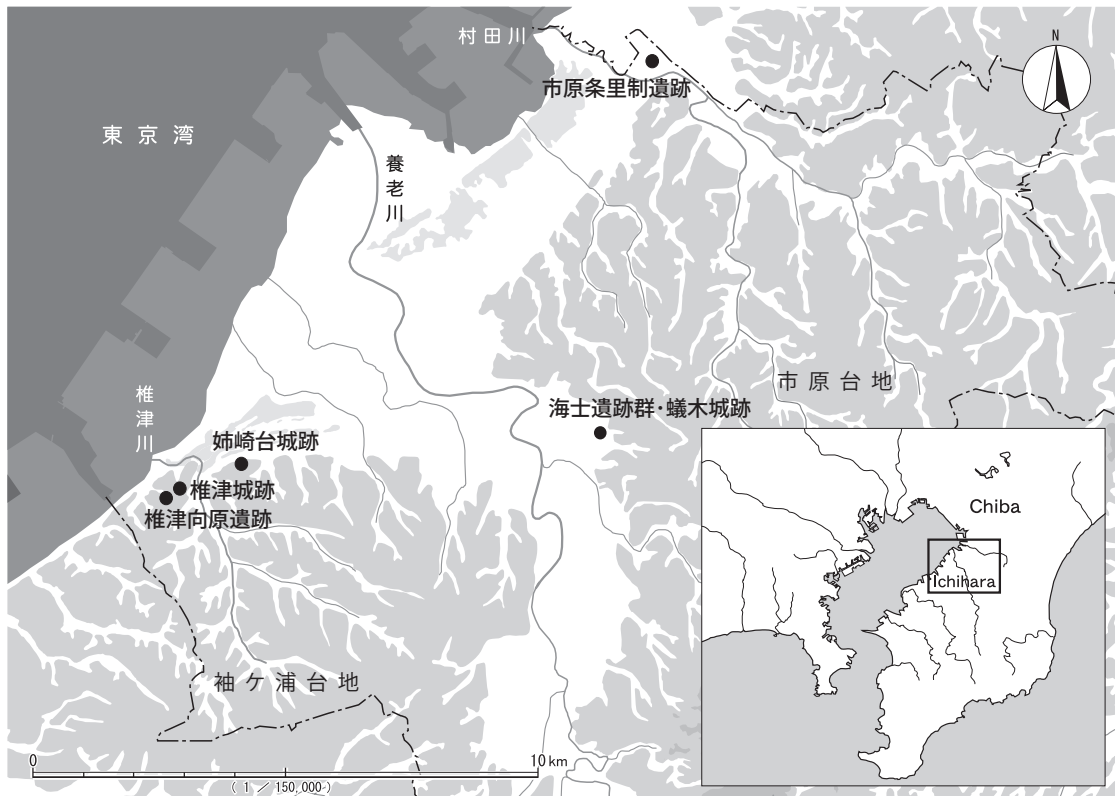


Fig.1 調査遺跡の位置

2 椎津城跡（五霊台地区）

遺跡の位置 本遺跡は、椎津川河口部の左岸台地上に立地し、標高30m程度を測る。調査区は椎津城跡の南端部に位置し、扇状を呈する台地の要部分に当たる。調査区北側に位置する椎津五霊台遺跡1次調査区南端と2次調査区では、東西に延びる堀跡2条が検出されており、城域の南端を区画している。

調査概要 調査区の現況地形は、北側が標高29.5m、南側が標高30.5mを測り、北側に緩く傾斜している。調査区北側は厚さ1m程度の資材置き場造成客土に覆われる一方、南端は地表面にロームが露出する。1～9トレンチの遺構確認面はハードロームで、ソフトロームは削平されて存在しない。遺構確認面の標高は28.2m程度である。昭和50年代には調査区南側に大型建物が存在し、ローム上面から攪乱を受けていることから、この部分に遺構が存在したか否かは不明である。

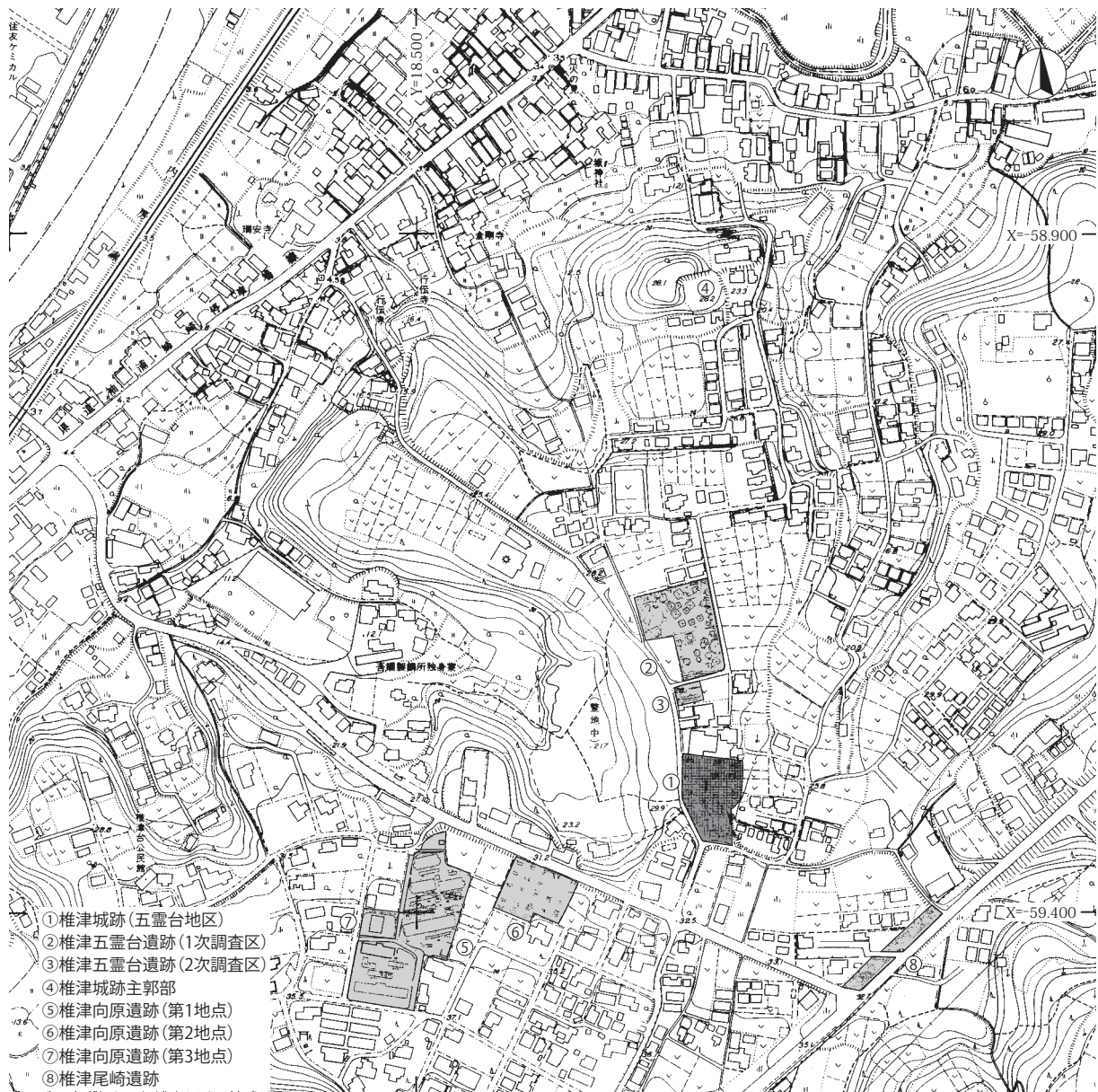


Fig.2 椎津城跡(五霊台地区) 周辺地形図

(S=1:5000 昭和55年 市原市地形図 F2)

椎津城跡（五霊台地区）

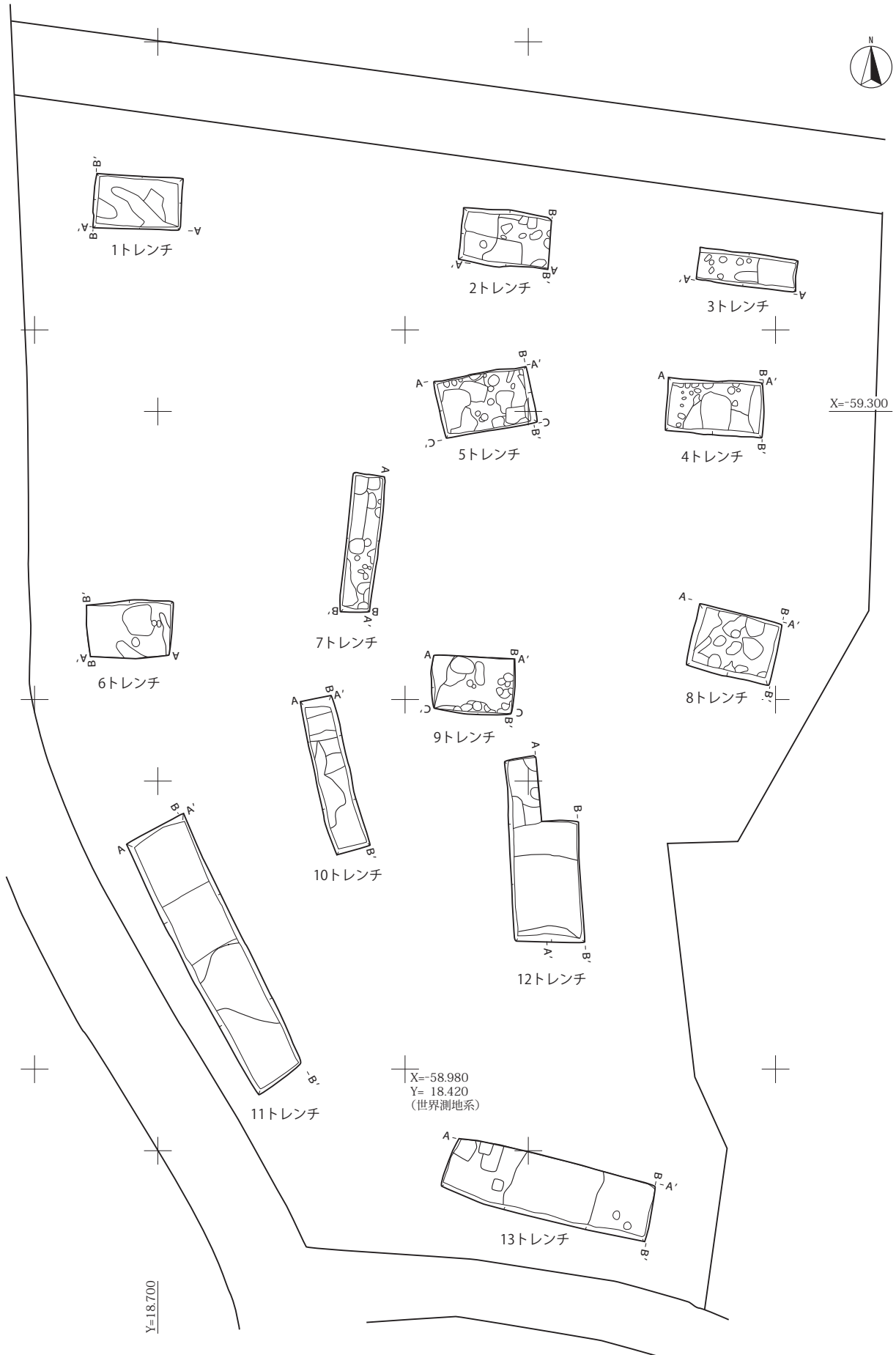


Fig.3 椎津城跡(五霊台地区)トレンチ配置図

椎津城跡（五霊台地区）

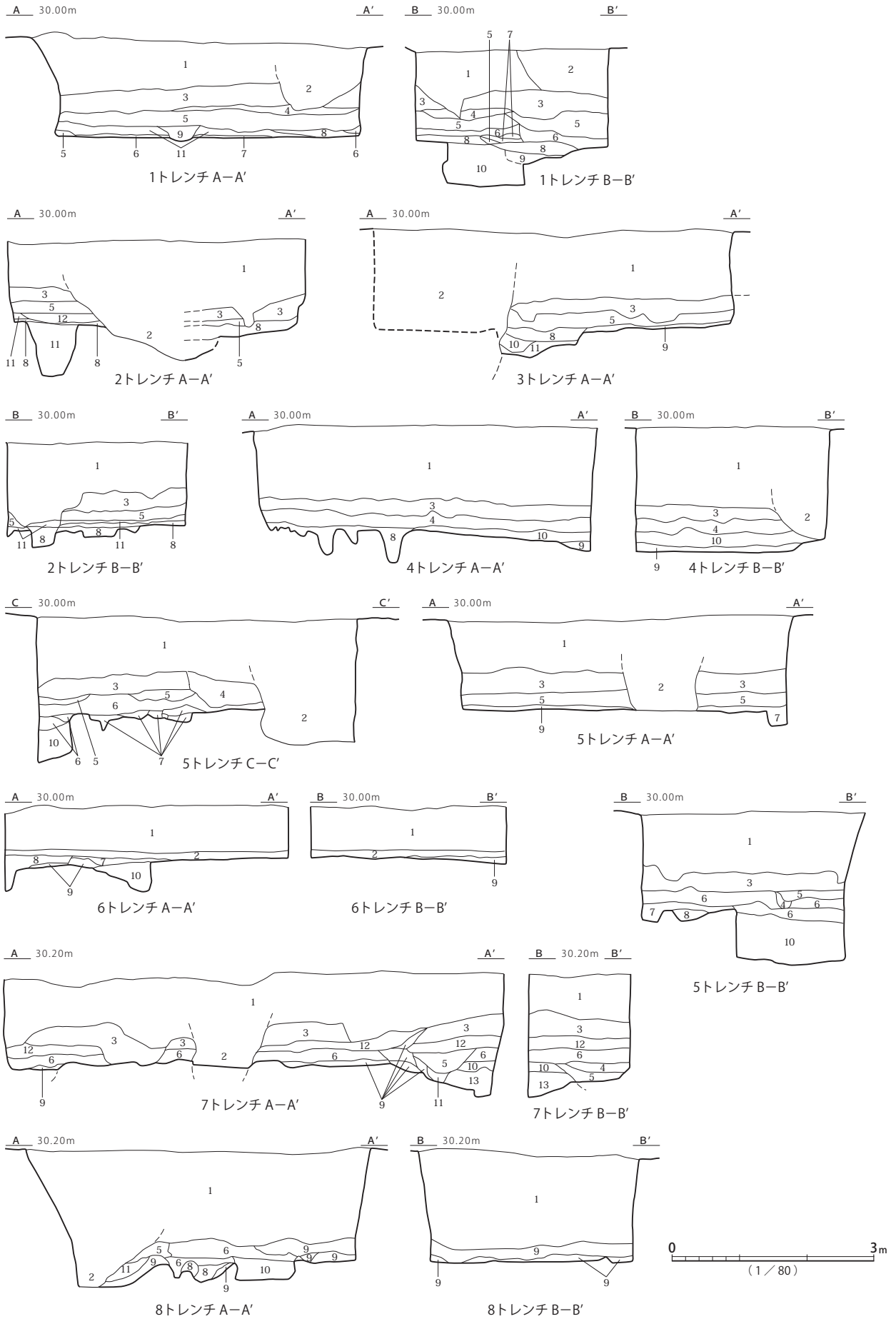


Fig.4 椎津城跡(五霊台地区) 1~8トレンチ 断面図

椎津城跡（五霊台地区）

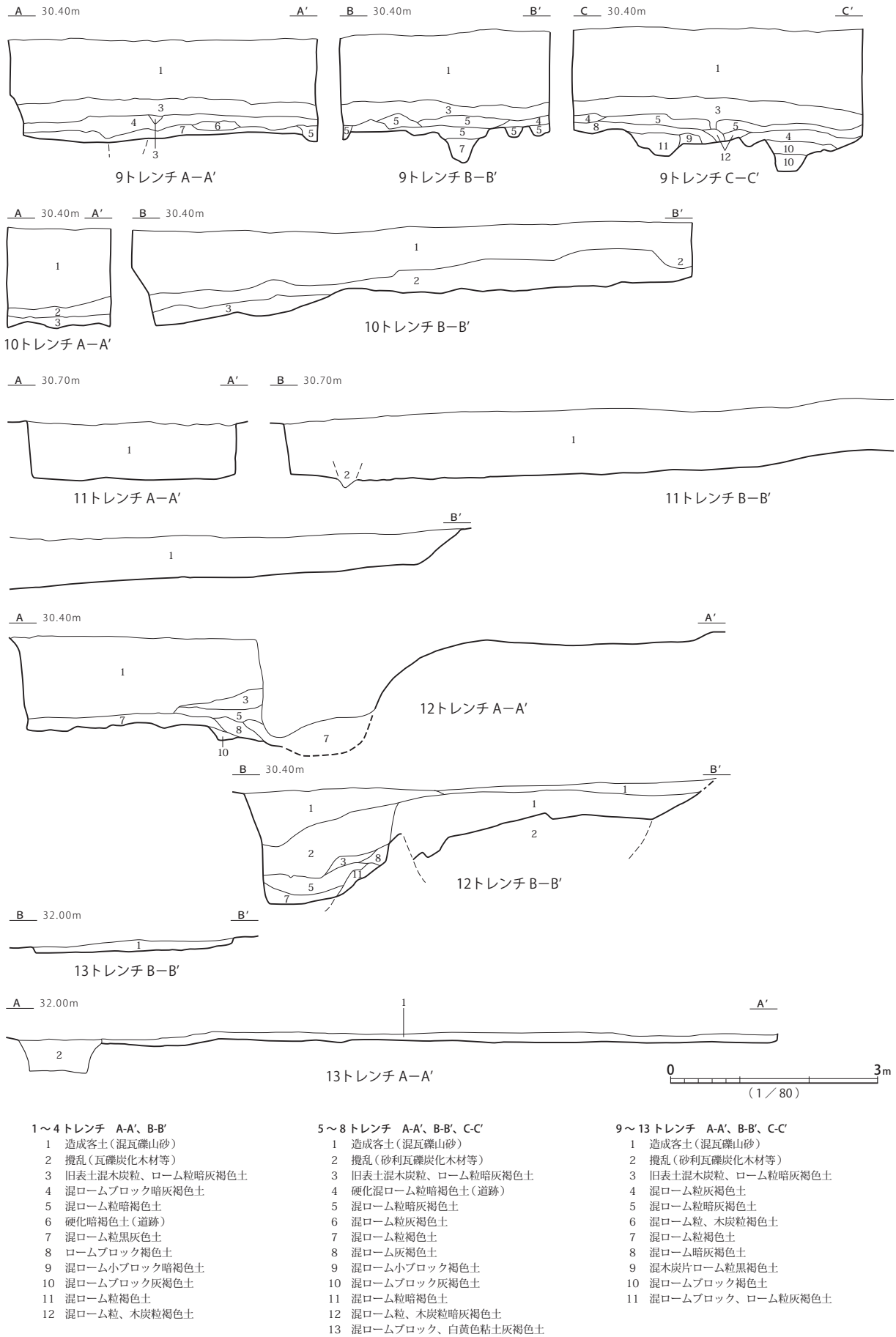


Fig.5 椎津城跡(五霊台地区) 9～13トレンチ 断面図

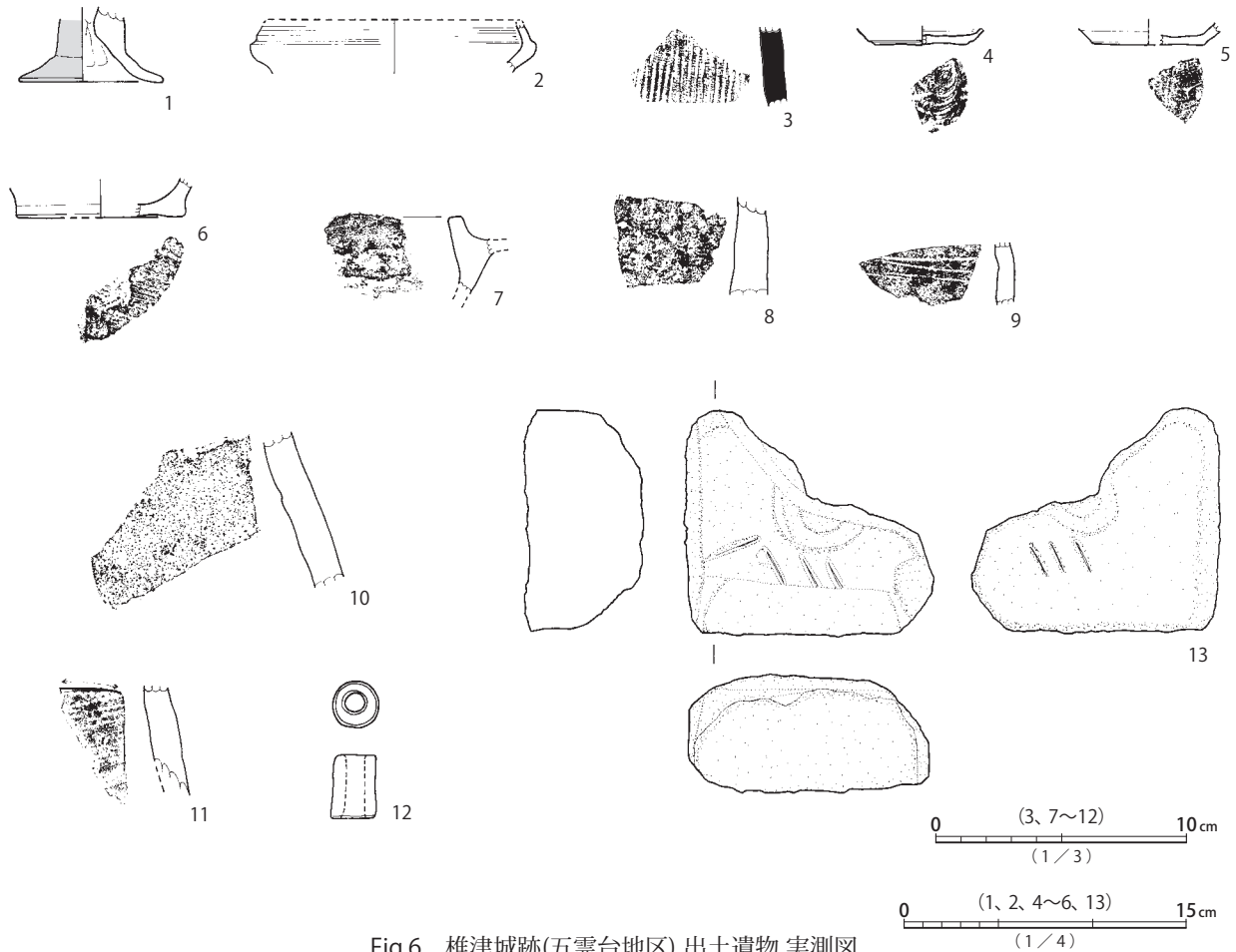


Fig.6 椎津城跡(五霊台地区) 出土遺物 実測図

遺構と遺物 検出された遺構は全て中世のもので、溝状遺構2条、地下式坑4基、土坑21基、柱穴状遺構と小ピット多数が混在する。調査範囲は区画墓域内に当たるものと推定され、12トレンチから検出された東西方向の溝が、墓域の南限と考えられる。12トレンチの溝は北方向に屈曲して、10トレンチ北端の浅い溝状遺構に接続するものと思われる。東側は開析谷頭となっており、谷によって区画された可能性がある。西側の区画溝は検出されておらず、6トレンチも墓域範囲内と考えられる。なお、11・12トレンチの南半分と13トレンチからは、遺構が確認されていない。

古墳時代の土師器小片が出土したが、当該時期の遺構が全く検出されないことから、調査区一帯は中世に削平されたものと推定される。中世の遺物は、陶器・鉄製品・石製品（石造物破片）が遺構確認面から検出されており、墓域に伴うものと考えられる。断面図の観察からは、墓域は整理廃却された可能性があり、表土層中の宝永火山灰は攪乱され土壌化していることから、近世以降は耕作地として利用されたものと考えられる。

参考文献

櫻井敦史 1997 「椎津尾崎遺跡」『市原市文化財センター年報』平成6年度（財）市原市文化財センター
 高橋康男 1998 『椎津五霊台遺跡』（財）市原市文化財センター
 市原市教育委員会 2009 「椎津向原遺跡」『平成20年度 市原市内遺跡発掘調査報告』
 市原市教育委員会 2014 「椎津向原遺跡（第2地点）」『平成25年度 市原市内遺跡発掘調査報告』

3 市原条里制遺跡（古市場川端地区）

遺跡の位置 調査区は、市の北端部、村田川下流域右岸の標高5m程度を測る自然堤防上に位置する。現在、調査区の東側約200mには天神社が位置し、境内にある由来書きには、周囲が「高嶋」と呼ばれ、古代末～鎌倉時代、この地域に千葉氏の家臣高嶋恒重の居館があったことを伝えるが、小字名には見えない。近隣の調査履歴としては、東関東自動車道建設に伴って調査された古市場（2）遺跡があり、ここで示された層序が参考となった。Ⅰ層は現耕作土、Ⅱ層は泥炭層、Ⅲ層は鉄分の多い砂層、Ⅳ層は青灰色系砂層で、Ⅳ層以下が村田川氾濫時の再堆積土層とされる。時期はⅡ層が古墳時代から奈良・平安時代の包含層、Ⅲ層下部は縄文時代から弥生時代の包含層の可能性が示されている。

調査概要 調査は、宅地造成に伴って行われ、調査対象面積1,189㎡の10%程度を目処に、任意のトレンチを9か所設定した。調査に先立って行われた試掘により、調査区内に貝層が存在することが確認されたため、貝層の時期や遺構の性格を見極めることを主眼として、周囲の状況を精査した。調査の結果、貝層はピットや土坑の覆土中に認められ、検出箇所は9か所に及んだ。これらの遺構の時期は、3トレンチSK-1（土坑）の貝層中から出土した陶器の年代から、近世初頭と考えられる。

遺構と遺物 中世後期～近世の土坑2基・溝状遺構2条、時期不明の土坑6基・溝状遺構2条が検出され、縄文土器、土師器、陶器、五輪塔、宝篋印塔、砥石、木製品等が出土した。1トレンチではSX-1（溝状遺構）とその覆土中に掘り込まれたピット7基を検出した。SX-1は北西から南東に延び、幅4.5mを測る。1トレンチの土層断面（A-A'）では、覆土が水平に堆積する南側の溝（3'・9層）と傾斜して堆積する北側の溝に分離可能で、南側の溝のほうが新しい。4・8トレンチから検出された溝状遺構につながるものとみられるが、ここでは溝を分けることはできなかった。貝層を伴うピットは全てSX-1の覆土を掘り込んでいる。平面形態は不整楕円形で、規模は直径28～40cmを測る。列状に配置されているように見えるが、建物とは断定し得ない。SX-1の覆土中からは中世大塚期の播鉢、近世陶器、木製品、砥石が出土するが、層位による傾向は捉えられない。遺構の時期は中世後期～近世と幅を持たせておく。貝層を伴うピットはこれより確実に新しく、近世初頭の3トレンチSK-1と近い時期に帰属するものと考えておく。2トレンチは土の堆積が特徴的で、現地表面から0.9m程度掘削したところで、遺構確認面となる灰色砂質土を確認したが、更に0.5m程度掘削したところから泥炭層が検出された。泥炭層の直下は青灰色砂質土となる。同様の堆積状況は5トレンチで認められ、調査区の北側が泥炭層を生成する環境であったことがわかる。

遺物は1トレンチSX-1に集中する。2は常滑甕の破片を転用した砥石で、内面及び上下破損面が研磨される。12は下駄に似るが、部材の可能性もある。13は板状、15は棒状の部材である。17はウマの中手骨で、解体ないし加工痕と思われる刃物傷が3か所認められる。18・23は安山岩製の小型五輪塔である。このほか、20の宝篋印塔の塔身は7トレンチ盛土内、7の製作地不明の陶器椀が3トレンチSK-1（土坑）の貝層中、10のカワラケが7トレンチSK-3（土坑）からの出土である。

出土遺物の特徴から、調査区は生活域に近く、墓域を含んでいた可能性がある。また、自然堤防の端部に立地し、泥炭層を覆う灰色砂質土の存在から、中世後期から近世以前に、村田川の氾濫等の自然環境に由来する作用を受けていたことが確認できた。

市原条里制遺跡（古市場川端地区）

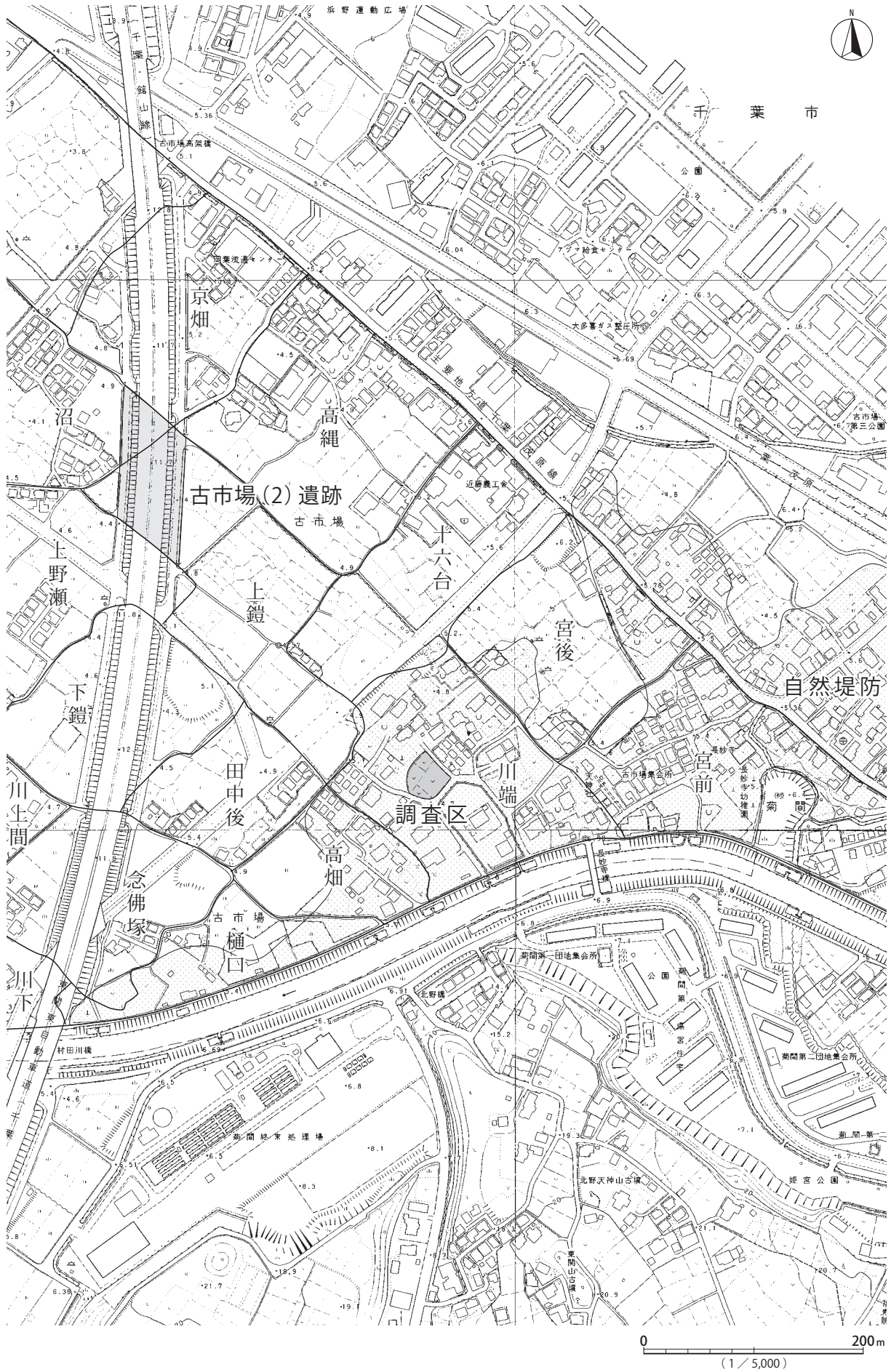


Fig.7 市原条里制遺跡(古市場川端地区) 周辺地形図

市原条里制遺跡（古市場川端地区）

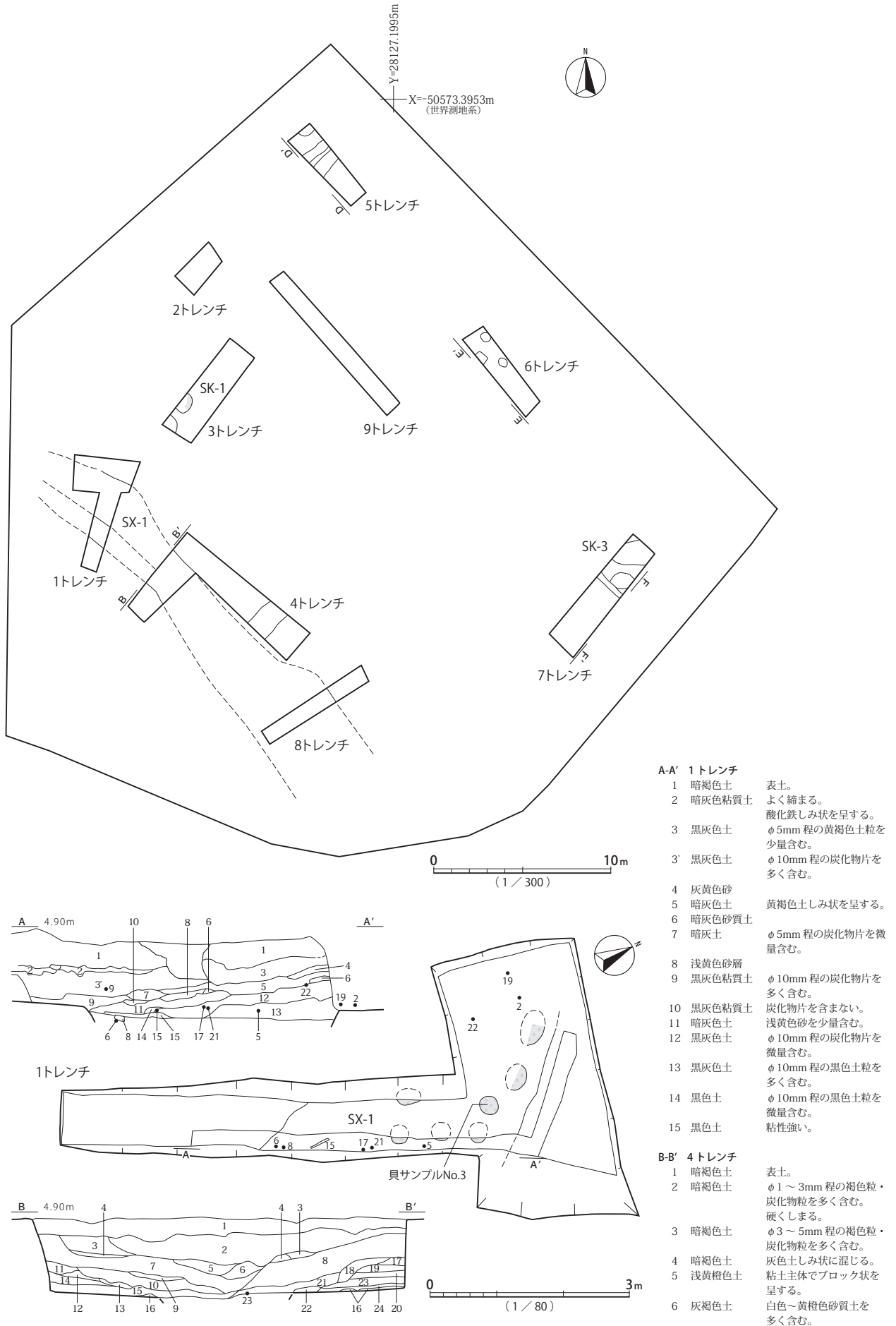


Fig.8 市原条里制遺跡(古市場川端地区)トレンチ配置図・平面図(1)・断面図(1)

市原条里制遺跡（古市場川端地区）

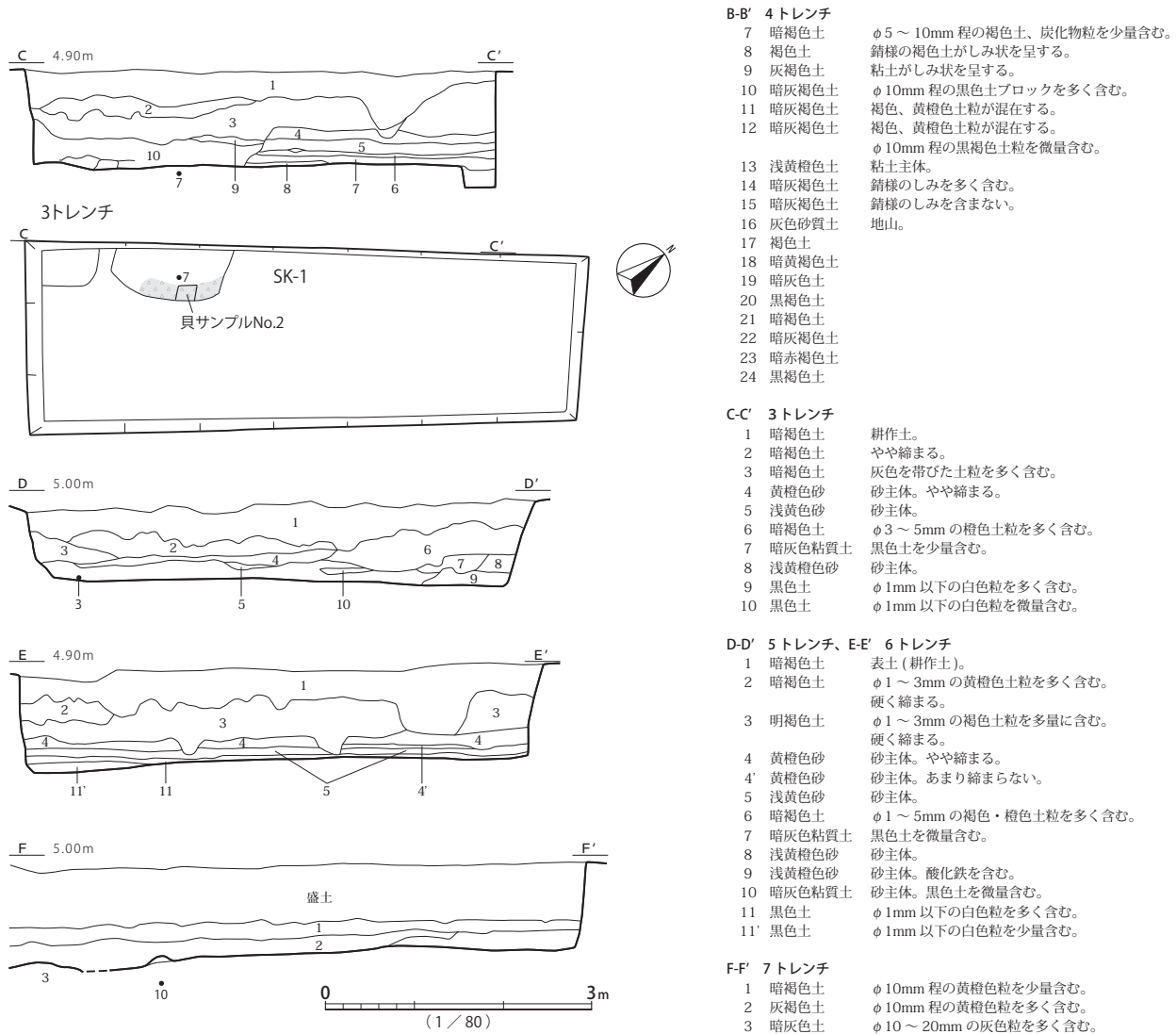


Fig.9 市原条里制遺跡(古市場川端地区) 平面図(2)・断面図(2)

Tab.1 貝層サンプル内容物集計

遺構 No.	トレンチ No.	サンプル No.	時期	総乾重量 (g)	フルイ水洗後残留物重量 (g)				土壌重量 (g)	混土率 (%)	集計対象貝 (g)	破砕率 (%)	備考
					10 mm	4 mm	1 mm	計					
SX-1	4	2	中世後期	1,600	41.4	11.5	11.4	64.3	1,535.7	96.0%	21.7	33.7%	ピット内貝層
SX-1	1	3	近世以降	2,750	47.4	24.2	34.6	106.2	2,643.8	96.1%	18.5	17.4%	
SK-1	3	2	近世	3,170	311.1	177.1	97.1	585.3	2,584.7	81.5%	224.1	38.3%	土坑内貝層

Tab.2 貝類出土量集計

遺構 No.	トレンチ No.	サンプル No.	SK-1	SX-1	合計
イボキサゴ			5		5
ツメタガイ			1		1
アラムシロガイ			1		1
シオフキガイ	L	2	2	2	6
	R	2			4
カガミガイ	L	2			2
	R	4			4
アサリ	L	120	3	4	127
	R	111	6		117
ハマグリ	L	28	2	6	36
	R	26	1	2	29

Tab.3 ハマグリ計測値集計

楕面長 (mm)	SK-1	SX-1	復元長 (mm)	SK-1	SX-1
-6.0			-10.0		
-7.0			-15.0		
-8.0	1		-20.0		
-9.0		1	-25.0	1	1
-10.0	3		-30.0	7	
-11.0	9		-35.0	8	1
-12.0	3	1	-40.0	1	1
-13.0	1		-45.0	2	
-14.0	1	1	-50.0	1	
-15.0			-55.0	1	
-16.0			-60.0		
-17.0			-65.0		
-18.0	2		-70.0		
試料数	21	3	試料数	21	3
最小値	6.4	7.6	最小値	20.5	24.1
最大値	16.7	12.1	最大値	51.3	37.6
平均値	10.5	10.0	平均値	32.8	31.4
標準偏差	±2.5	±2.3	標準偏差	±7.6	±6.8

殻長 = 楕面長 × 2.99 + 1.4 をもとに復元推定

市原条里制遺跡 (古市場川端地区)



Fig.10 市原条里制遺跡(古市場川端地区) 出土遺物 実測図

4 海士遺跡群・蟻木城跡

調査概要 調査区は、養老川中流域右岸の沖積地に面した標高22～23mの微高地上に位置する。近隣では、南側約200mの微高地上において、海士遺跡群（三入道地区）として調査が行われており、古墳時代前期の方墳及び円墳や、弥生時代後期及び古墳時代前期の竪穴建物跡等が検出された。また、中世室町期の和鏡も土坑墓確認面から出土しており、蟻木城跡との関係が注目される。

一方、北側約300mの段丘面では、山倉前畑遺跡（第2地点）として調査が行われており、弥生時代後期から古墳時代後期にかけての竪穴建物跡等が検出されている。これまで、あまり調査例がなかった養老川中流域に面する段丘面や微高地上において、弥生時代から古墳時代にかけて、濃密に遺構が展開していることが、近年明らかになりつつある。

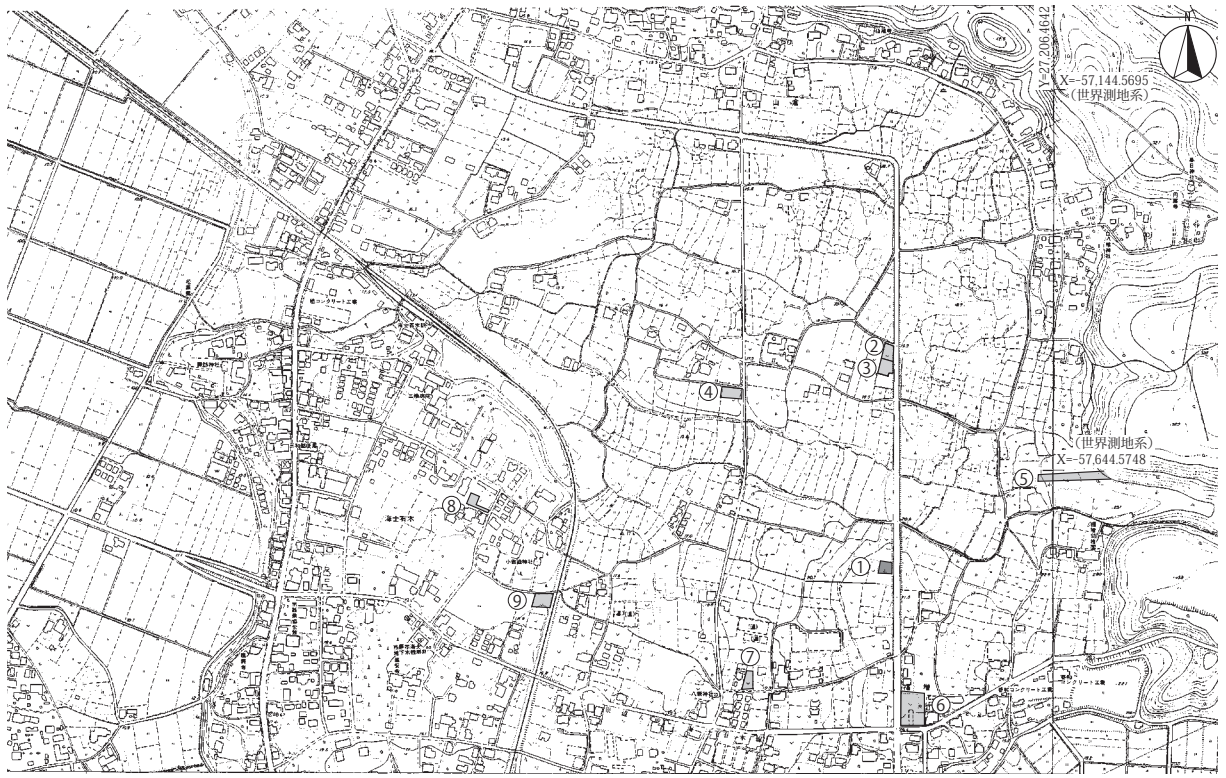
調査は、個人住宅の建設に伴って行われ、掘削により遺構の保存が困難な駐車場部分42㎡について本調査を行った。その結果、わずかな調査面積にもかかわらず、4棟の竪穴建物跡が重複して検出され、長期にわたる遺構の展開が明らかとなった。なお、表土下40～60cmでローム面が表出し、遺構確認面となった。

遺構と遺物 調査区北東部において、奈良時代後半に帰属すると考えられる竪穴001を検出した。遺構深度は確認面から20cm程度を測り、平面規模は一辺4m程度の方形を呈すると考えられる。遺構南東及び南西部に支柱穴とみられるピットを検出した。竪穴床面の中央部が硬化しており、硬化面と考えられる。覆土は暗黒色土を基本とする。調査区内において白色粘土等の散布が見られないことから、カマドは調査区外の北辺壁側に存在すると考えられる。遺物の出土はわずかであるが、南側壁溝付近床面直上において、須恵器蓋（Fig.13 竪穴001-4）が出土している。焼成が良好であり、永田・不入窯産の可能性が高い。他には、底部に糸切り痕を残す土師器杯（Fig.13 竪穴001-3）等が出土しているが、混入遺物と考えられる。

調査区南西部では、古墳時代後期に帰属すると考えられる竪穴002を検出した。遺構深度は30cm程度を測り、覆土は暗黒褐色土を基本とする。遺構北東側部分のみの検出であり、北辺壁からはカマドが検出された。カマドは右袖部及び火床面のみを検出であり、左袖部は調査区外に延びる。火床面の下部からは、竪穴003に帰属すると考えられる柱穴跡が検出されたことから、本遺構は竪穴003の廃絶後に建てられたと考えられる。支柱穴には、柱の抜取り痕跡や掘直し痕跡が認められた。カマド前面から支柱穴間にかけて、硬化面が検出された。遺物は、遺構中央部東寄りの覆土中から出土しており、胴部上半に再利用に伴う焼成後穿孔を施した可能性がある土師器甕（Fig.13 竪穴002-9）や口縁部がくの字状に屈曲する土師器甕（Fig.13 竪穴002-8）等が出土した。他には、斜格子状の暗文が施された土師器杯（Fig.13 竪穴002-2・3）や、凹み底の土師器甕底部（Fig.13 竪穴002-10）、弥生時代後期後半山田橋式期と考えられる壺口縁部（Fig.13 竪穴002-16）等が出土しているが、混入遺物と考えられる。

調査区中央部からは、竪穴002と重複して、古墳時代後期に帰属すると考えられる竪穴003が検出された。前述のとおり、竪穴002のカマド火床面下部からは、本遺構に帰属すると考えられる柱穴跡が検出されており、竪穴002よりも古い。覆土は竪穴002に近似する暗黒褐色土である。遺構深度は30cm程度を測る。遺構中央部床面からは、竪穴002に切られるように硬化面が検出された。

海土遺跡群・蟻木城跡



(市原市地形図 昭和55年測図より)

0 500m
(1/10,000)

- ①海土遺跡群・蟻木城跡
- ②山倉前畑遺跡(第2-2地点)
- ③山倉前畑遺跡(第2-1地点)
- ④山倉前畑遺跡(第1地点)
- ⑤池ノ谷遺跡
- ⑥海土遺跡群(三入道地区)
- ⑦海土遺跡群(久保畑地区)
- ⑧海土遺跡群(海土地区)
- ⑨海土遺跡群(十二天地区)

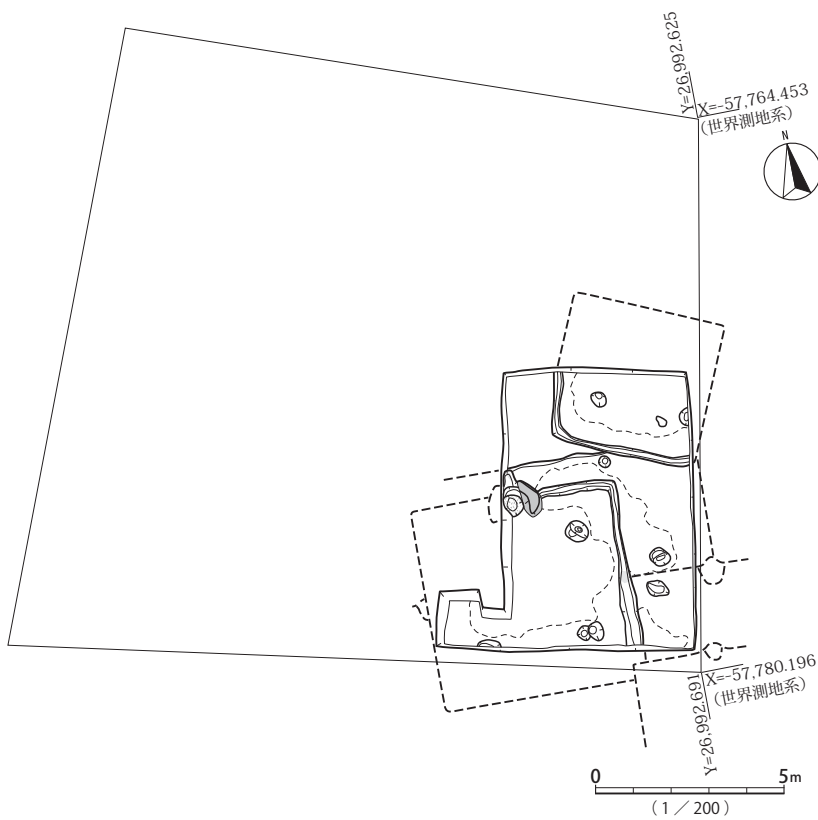


Fig.11 海土遺跡群・蟻木城跡 周辺地形図・調査範囲図

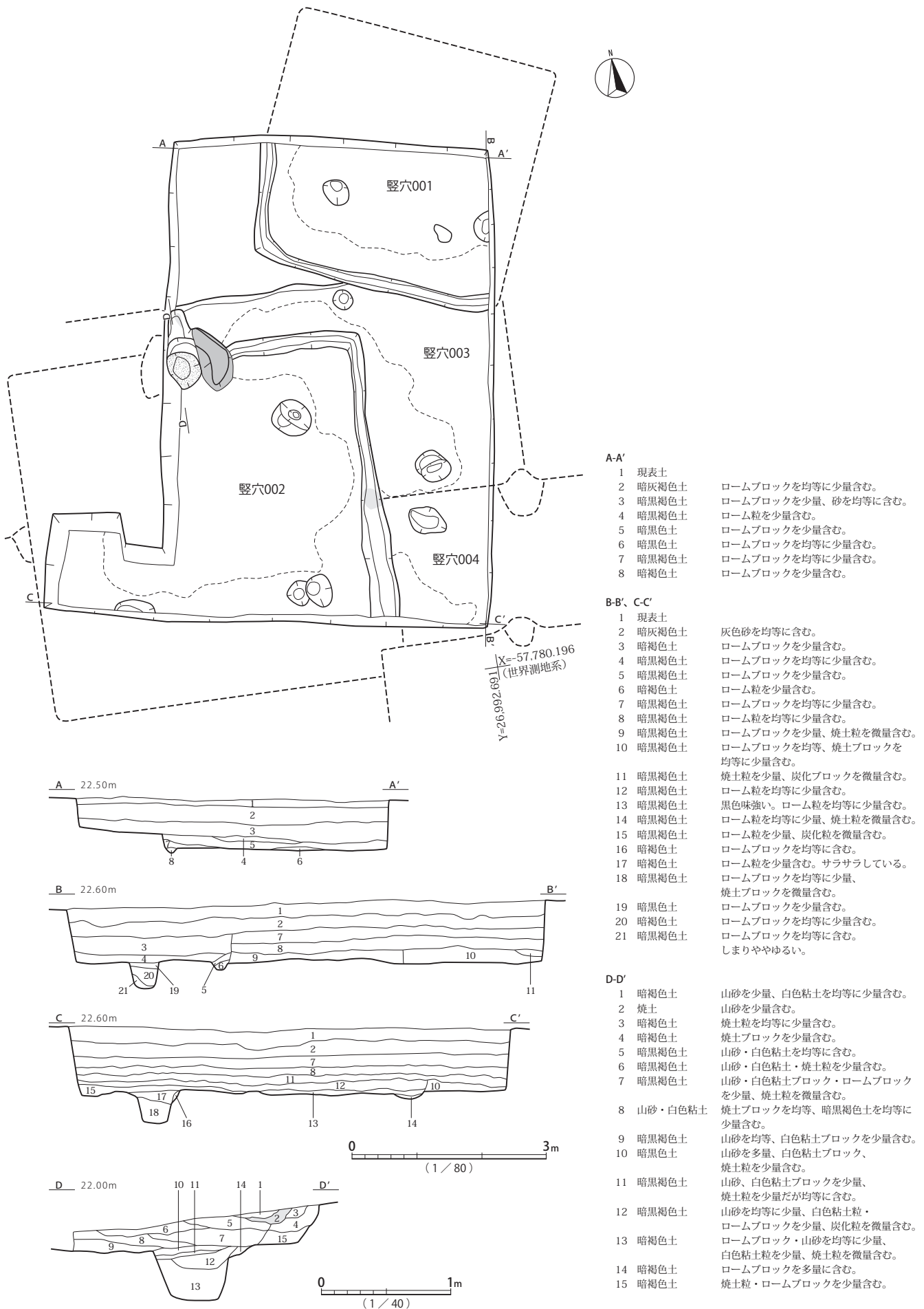


Fig.12 海土遺跡群・蟻木城跡 平面図・断面図

柱穴には、一部抜取り痕跡が認められた。遺物は、遺構中央部東寄りの覆土下層から、口縁部が直立する土師器杯 (Fig.13 竪穴003-1～3)、小型甕 (Fig.13 竪穴003-8)、支脚 (Fig.13 竪穴003-18) 等が出土している。他には、弥生時代後期後半山田橋式期と考えられる壺口縁部 (Fig.13 竪穴003-12・13) 等が出土しているが、混入遺物と考えられる。

さらに、調査区南東隅部において竪穴002及び竪穴003と重複する竪穴004が検出された。出土遺物及び土層断面の観察から、本遺構は竪穴003より後出し、竪穴002に先行すると考えられる。覆土は竪穴002及び竪穴003に近似する暗黒褐色土である。遺構深度は30cm程度を測る。床面からは、竪穴002に切られるように硬化面が認められた。遺構北西部からピットが検出されたが、本遺構に帰属するか、竪穴003に帰属するかは明らかにできなかった。遺物は、遺構中央部を中心に、口縁部がやや内傾する土師器杯 (Fig.13 竪穴004-2) や、器高が低く、脚部が太い土師器高杯 (Fig.13 竪穴004-3)、口縁部が直立し長胴化した土師器甕 (Fig.14 竪穴004-6) 等が出土している。他には、口縁部が直立する土師器杯 (Fig.13 竪穴004-1) や、須恵器甕口縁部 (Fig.14 竪穴004-18)、弥生時代後期甕胴部 (Fig.14 竪穴004-19) 等が出土しているが、混入遺物と考えられる。

なお、竪穴004南側の推定竪穴は、調査後の工事立会い時に確認したものである。

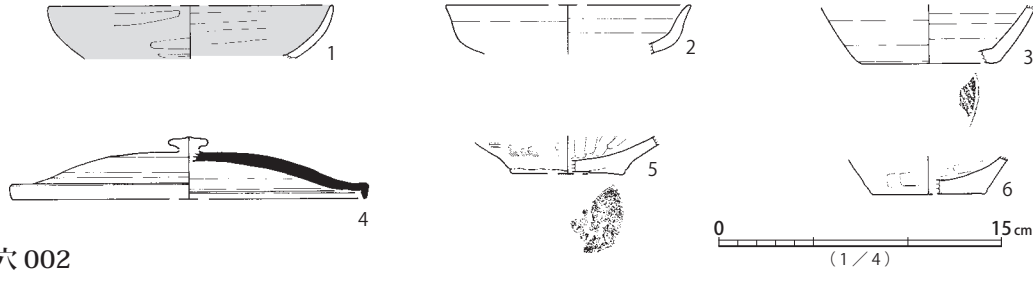
遺構の重複関係をまとめると、調査区中央部の竪穴003が最初に建てられ、廃絶後、竪穴004が建てられた。竪穴004の廃絶後、西側の竪穴002が建てられた。そしてやや時期を空けて竪穴001が建てられた。帰属時期は、竪穴003が6世紀前葉、竪穴004が6世紀後葉、竪穴002が7世紀前葉～中葉まで下る可能性があり、そして、竪穴001が8世紀後半頃と考えられる。その他の一括出土遺物としては、ロクロ土師器杯 (Fig.14 一括-1) や、底部中央に糸切り痕を残す須恵器杯 (Fig.14 一括-2) 等が出土しており、周囲に奈良・平安時代の遺構が他にも存在していることは確実と考えられる。

本遺跡は、竪穴建物跡の重複が著しいにもかかわらず、各遺構の深度がほぼ均一であり、床面の高低差がほとんど見られなかった。出土遺物を極力原位置で残し、出土状況から遺構の重複及び帰属時期を判断する等、周囲の遺跡調査時には注意を要する。なお、蟻木城跡関連と想定される中世戦国期の遺構及び出土遺物は、今回の調査では見られなかった。

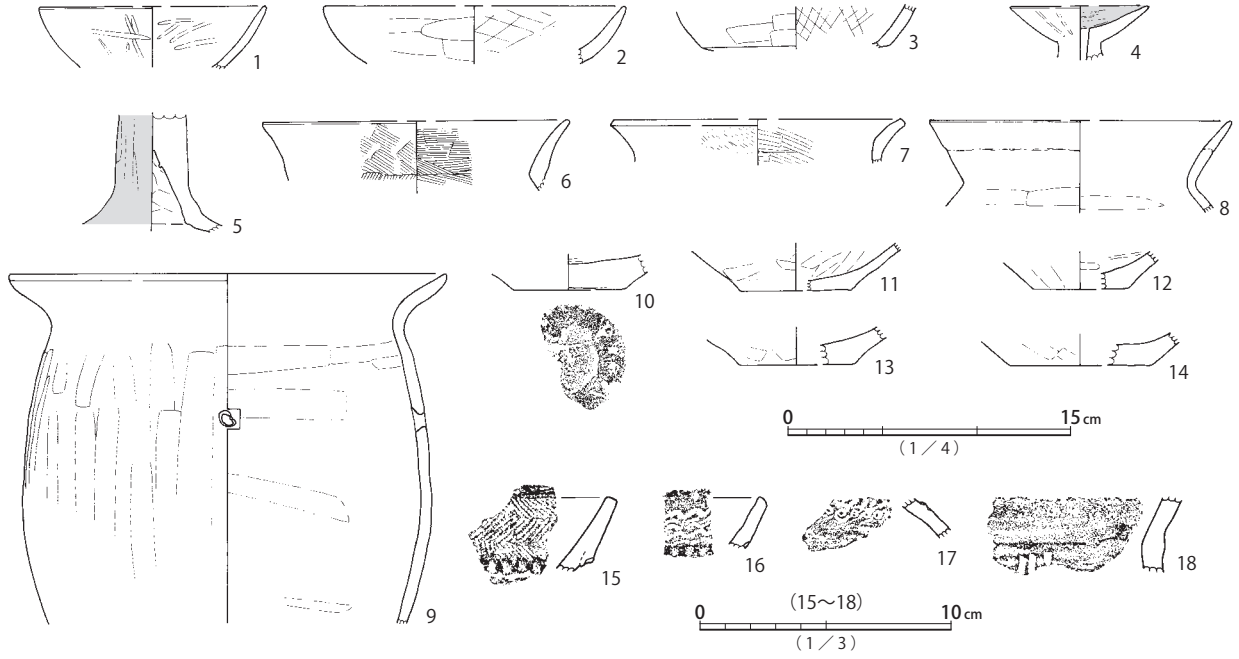
参考文献

- 小川浩一 2008 『市原市海土遺跡群 (三入道地区)』市原市教育委員会
 市原市教育委員会 2012 「山倉前畑遺跡」『平成23年度 市原市内遺跡発掘調査報告』
 市原市教育委員会 2013 「山倉前畑遺跡第2地点」『平成24年度 市原市内遺跡発掘調査報告』
 市原市教育委員会 2015 「山倉前畑遺跡 (第2-2地点)」『平成26年度 市原市内遺跡発掘調査報告』

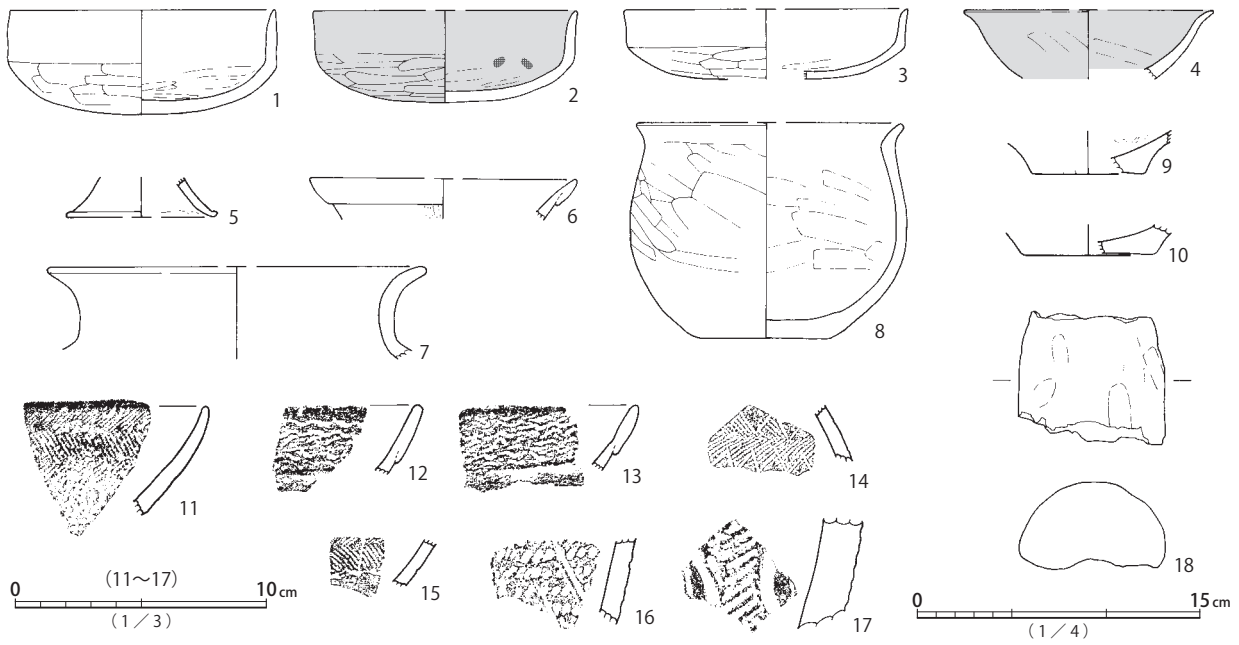
豎穴 001



豎穴 002



豎穴 003



豎穴 004

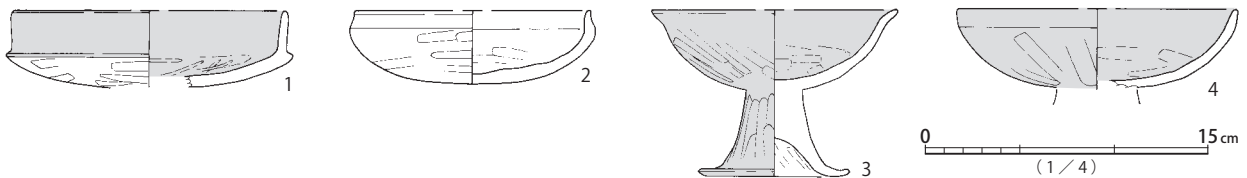
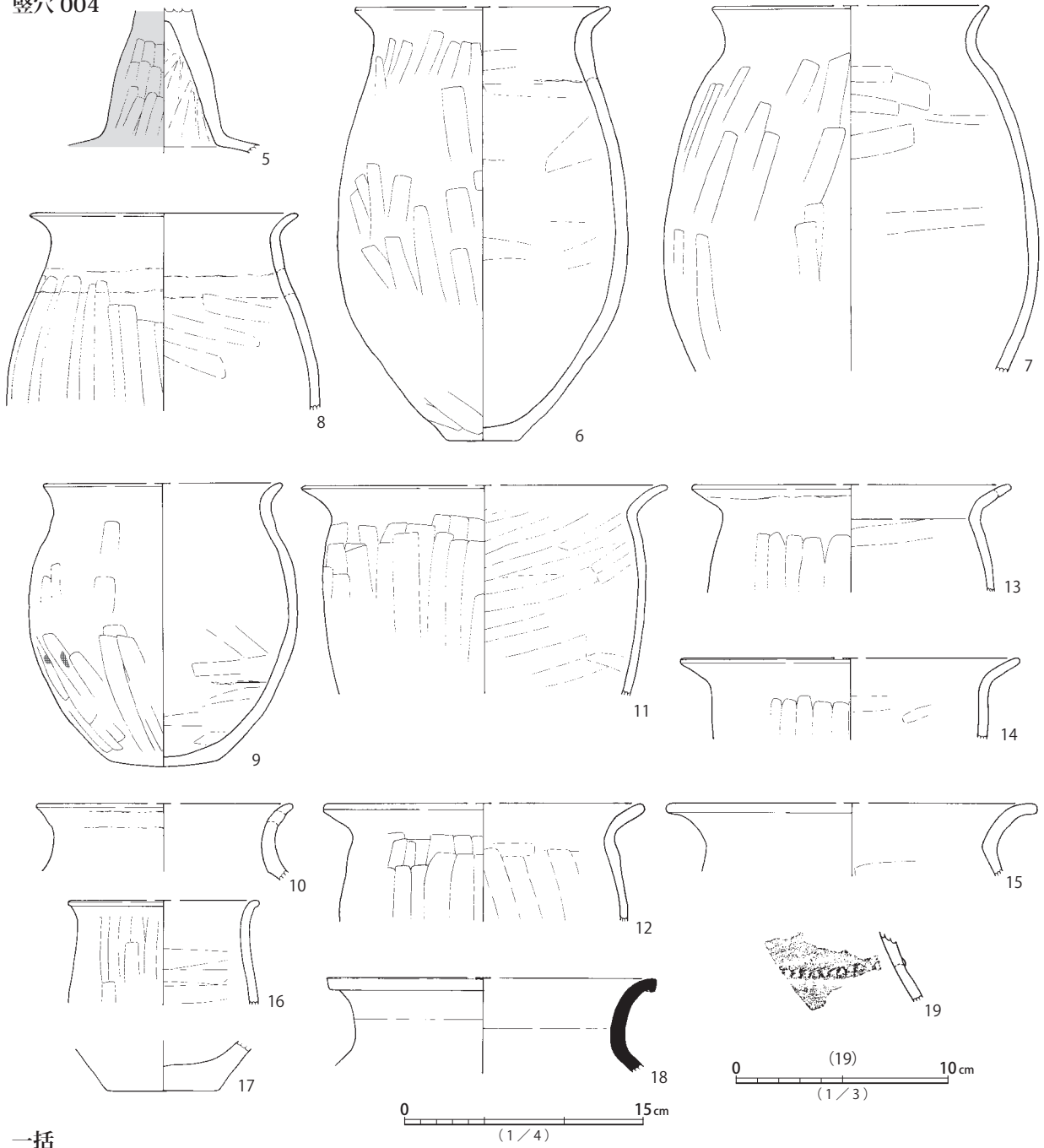
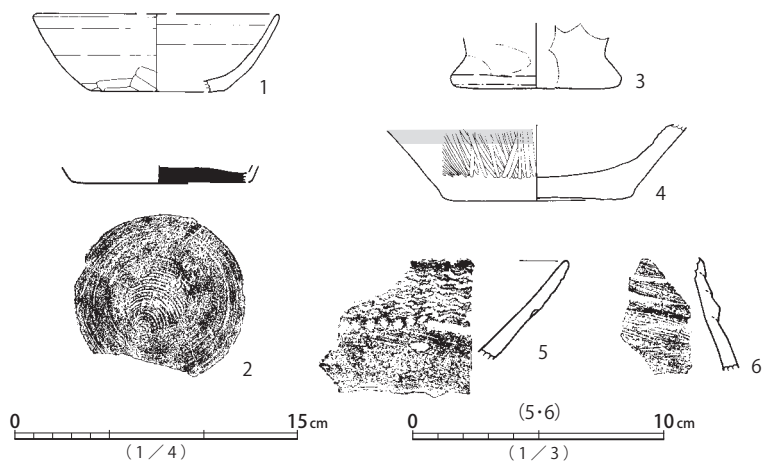


Fig.13 海土遺跡群・蟻木城跡 出土遺物 実測図(1)

竪穴 004



一括



試掘

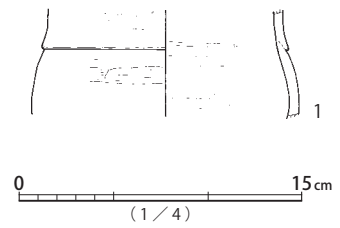


Fig.14 海士遺跡群・蟻木城跡 出土遺物 実測図(2)

5 姉崎台城跡

遺跡の位置 遺跡は、市の北西部、養老川と椎津川に挟まれた標高30m程度を測る台地の東端部に位置する。同台地の西端部には式内社である姉崎神社が鎮座し、尾根上には上海上国造につながる首長系の墳墓とされる前方後円墳（姉崎天神山古墳・釈迦山古墳・鶴窪古墳）が点在する。調査区は台地の北側に開口する小支谷の谷頭部に位置し、東側には姉崎天神山古墳（千葉県指定史跡）の前方部が近接する。南側には、2基の円墳で構成される宝蔵寺古墳群と馬蹄形を呈する可能性がある姉崎台貝塚が位置する。姉崎台城跡範囲内における調査は、姉崎東原遺跡として行われた一連の調査に継ぐものとなるが、これまでに姉崎台城跡に関連する時期の遺構・遺物は検出されていない。また、周辺の調査事例には、鶴窪古墳、山王山古墳、釈迦山古墳、姉崎台遺跡、姉崎神社社殿地に当たる姉崎宮山遺跡等があるが、詳細については割愛する。

調査概要 調査区は、姉崎天神山古墳に近接することから、基準点測量を実施した。調査は、長屋住宅新築に伴って行われ、調査対象面積498.8㎡の10%程度を目処に、任意のトレンチを3か所設定した（Fig.17）。調査区内には、生活道路や計画された建物基礎構造の制約などから掘削できない範囲を含んでいる。調査区の現状地形は、姉崎天神山古墳と宝蔵寺側から延びる緩斜面と平坦面であるが（Fig.16）、旧地形図の確認や地権者からの聞き取りにより、昭和50年代に大規模な盛土が行われていることが判っており、旧地形は傾斜地であることが予想された。調査では姉崎天神山古墳に関連する遺構の捕捉に注意を払いつつ、姉崎台城跡に関連する遺構の検出を目指した。調査の結果、3本のトレンチで1.3～3mを超える盛土を確認し（Fig.15 土層柱状図）、盛土直下の旧地表面からは、姉崎台貝塚からの自然崩落とみられる貝が散見された。地山層は浅黄橙色を呈する砂質粘性土で、地山層の直上には灰色を帯びた暗褐色土が薄く堆積し、北及び北西方向へ続く傾斜が確認できた。

遺構と遺物 1トレンチではピット1基を検出したが、遺物が伴わず、時期の決定はできない。また、トレンチの南東側（斜面上方側）では、過去に重機による削平の後に、盛土が行われていた。遺物は、盛土中及び、自然崩落土と見られる土中からの出土で、いずれも二次的な堆積物と判断した。1～3は縄文土器、6は須恵器甕、7～9は円筒埴輪とみられる。7はタガの断面形がM字形を呈し、タガの上下には入念な横方向のナデが認められる。2トレンチではピット1基を検出し、覆土は1トレンチのピットと異なるものの、遺物が伴わず、時期の決定はできない。遺物は、崩落土とみられる暗褐色土中から4・5が出土した。いずれも宮ノ台式の甕である。3トレンチは現地表面から3mまで掘削したが、基底面に達しなかったため、安全上の理由から掘削を断念し、記録を取っている。今回の調査では、姉崎台城跡や姉崎天神山古墳に直接つながる成果は得られなかったが、出土遺物から、周囲に埴輪を伴う古墳の存在が明らかとなった。埴輪は1トレンチからのみ出土しており、これを自然崩落と評価すれば、煙滅した宝蔵寺古墳ないし宝蔵寺2号墳に由来すると考えられる。

参考文献

- 千葉県教育委員会 1997 『千葉県重要古墳群測量調査報告書―市原市姉崎古墳群―』
- 千葉県教育委員会 1970 『姉ヶ崎台遺跡発掘調査概報』
- 市原市教育委員会 1993 「姉崎東原遺跡D地点」『平成4年度 市原市内遺跡発掘調査報告』
- 高橋康男 1990 『市原市姉崎東原遺跡』 財団法人市原市文化財センター

姉崎台城跡

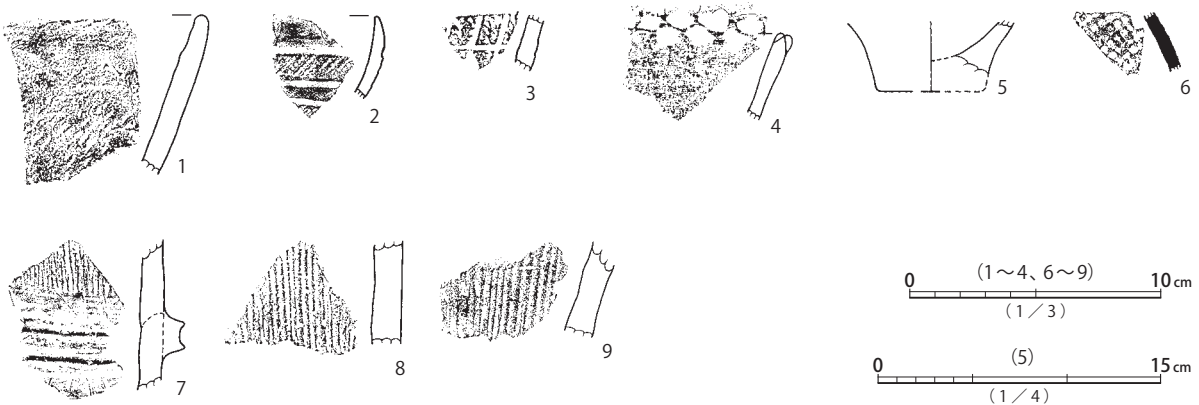
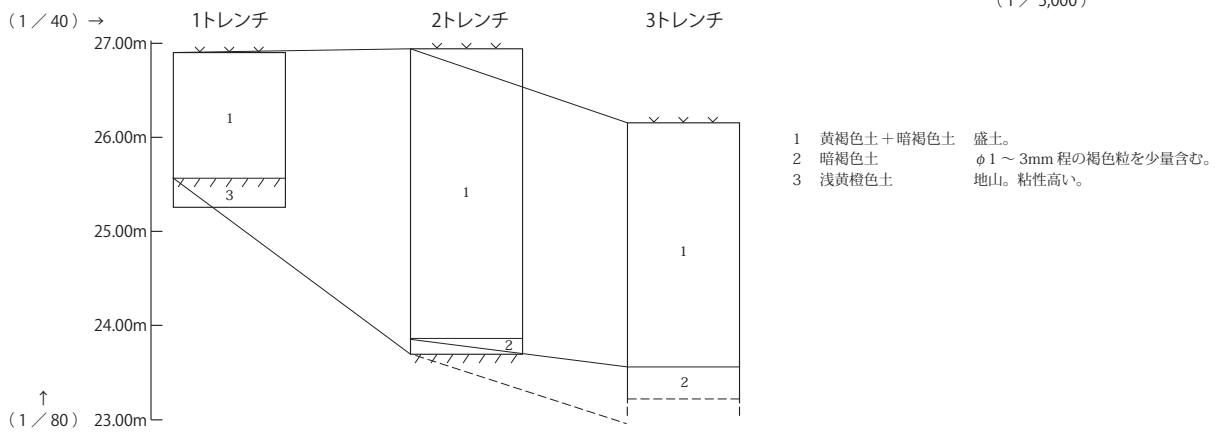
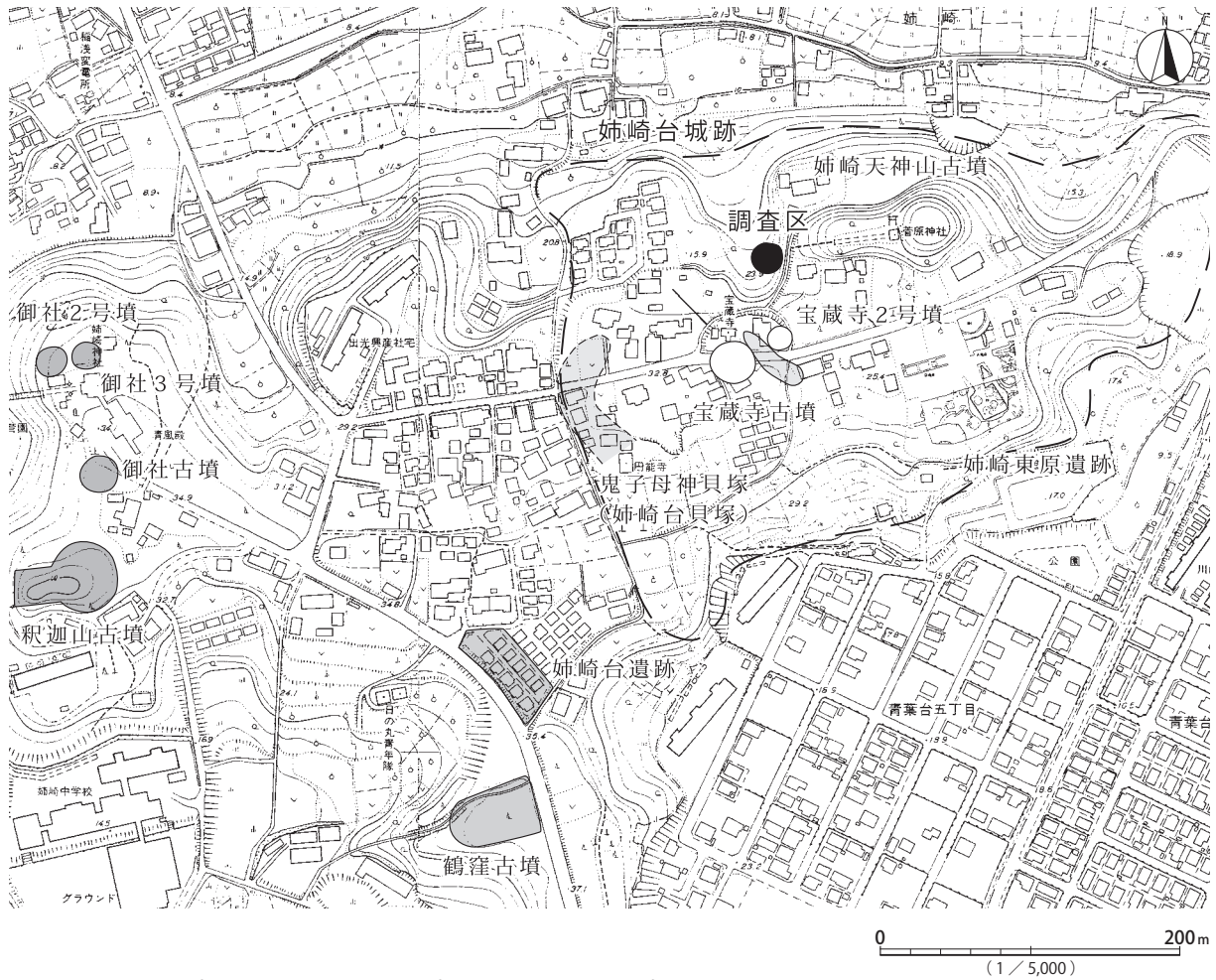


Fig.15 姉崎台城跡 周辺地形図(1)・土層柱状図・出土遺物 実測図

姉崎台城跡

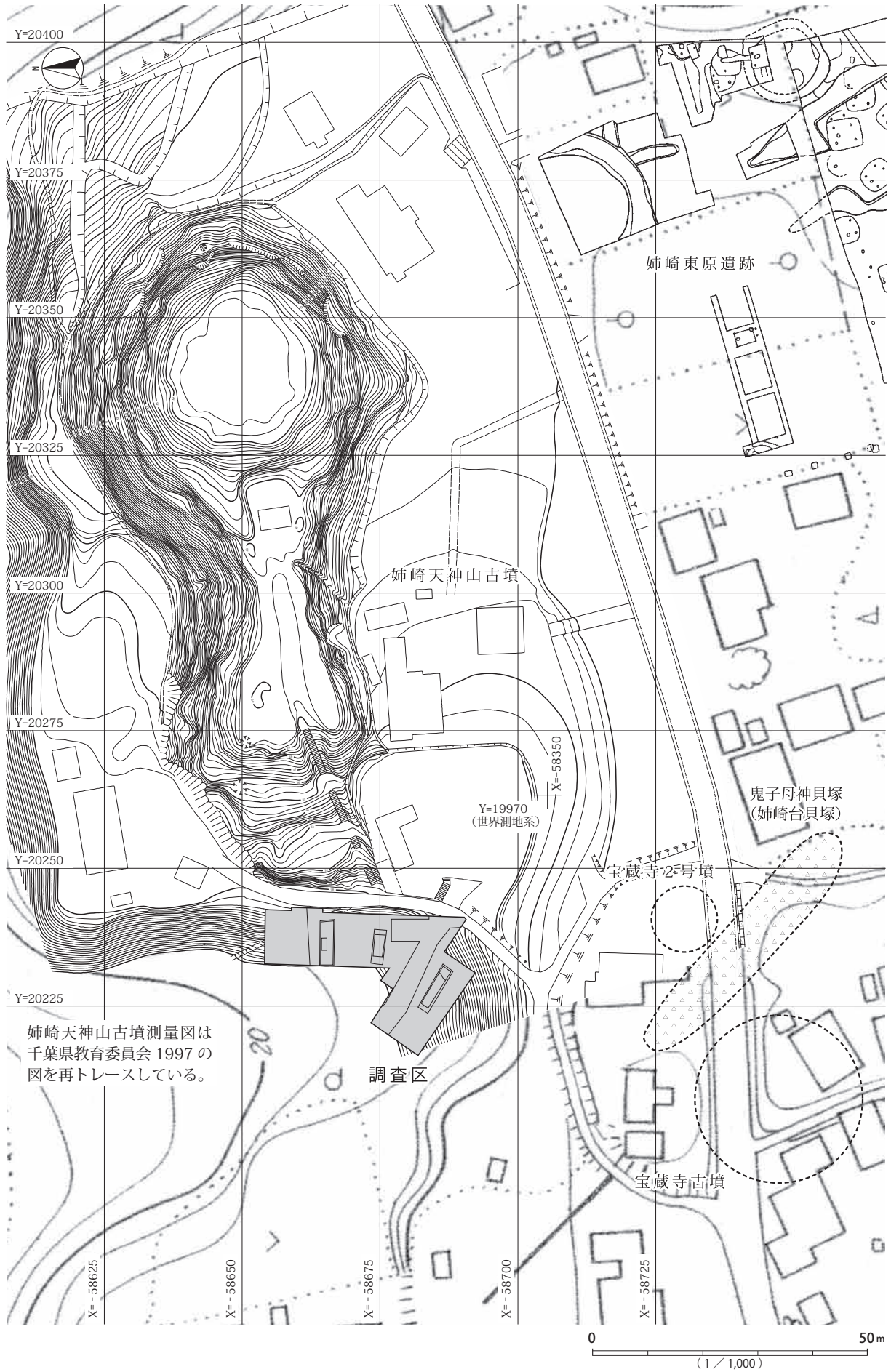


Fig.16 姉崎台城跡 周辺地形図(2)

姉崎台城跡

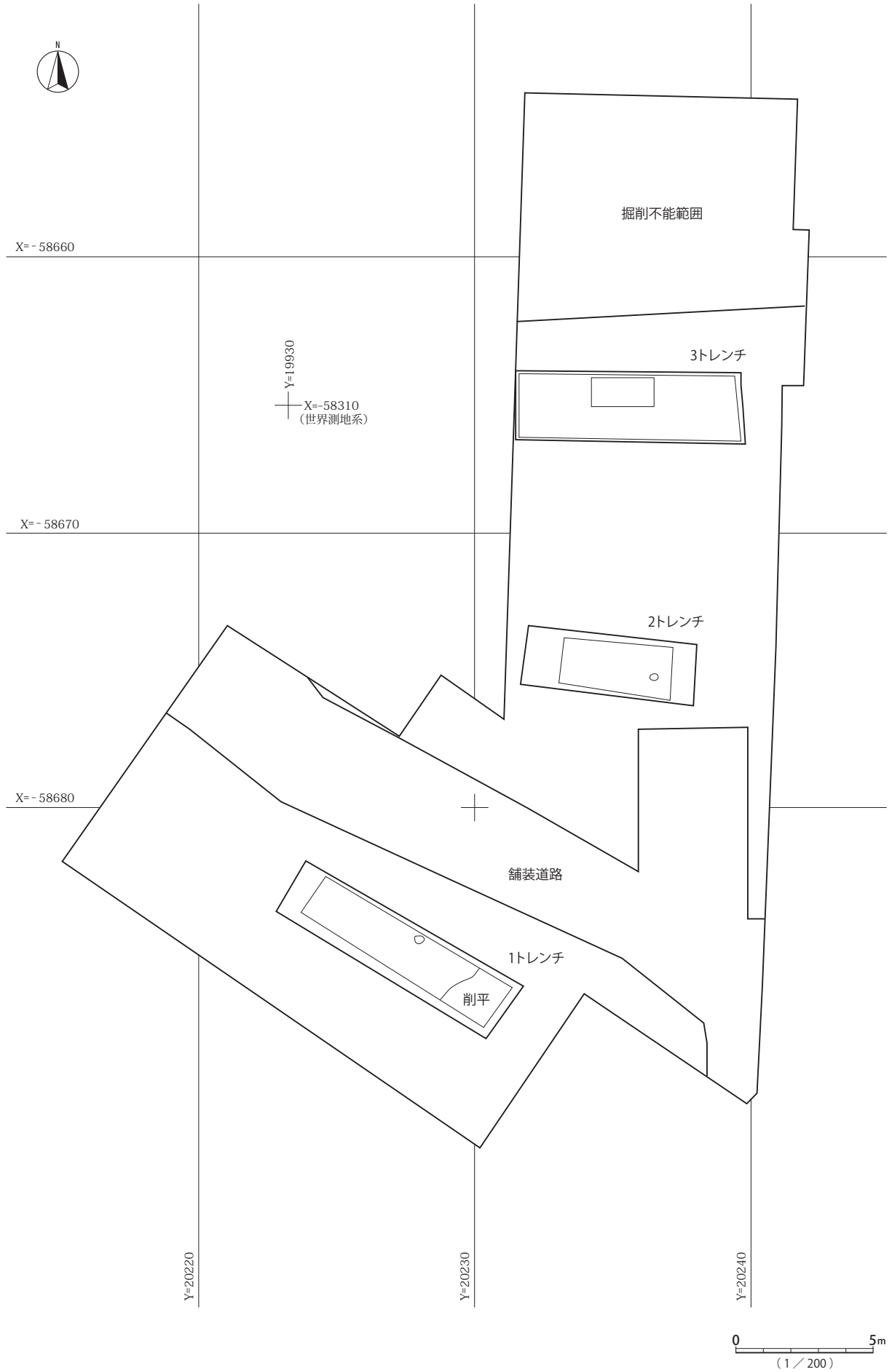


Fig.17 姉崎台城跡トレンチ配置図

6 椎津向原遺跡（第3地点）

調査概要 現地は、東京湾の海岸線を北西に望む、標高35m前後の台地上に位置する。周辺は、平成20年に東側隣接地の第1地点を調査し、古墳時代後期の竪穴建物跡群を確認している。また平成25年には、北東80mの第2地点で調査を実施しており、古墳時代後期及び平安時代の竪穴建物跡群を確認している。今回調査を行った第3地点は、遺跡範囲の北西縁辺部に位置し、隣接する第1地点で検出された古墳時代後期の集落展開の把握が、調査の主目的となった。調査に当たっては、集合住宅建設予定地及び周囲に4か所のトレンチを設定し、遺構の存在や遺物の有無を確認した。いずれのトレンチにおいても、表土下20～30cm程度でローム面が表出し、遺構確認面となった。

遺構と遺物 調査区南側の4トレンチにおいて、古墳時代後期の竪穴建物跡を3棟確認した。トレンチ西側に位置する竪穴001は、南東隅部及び北辺のカマド部が確認された。カマド位置を、北辺壁の中央と推定すると、平面規模は一辺4m程度で、方形を呈すると考えられる。覆土は暗黒褐色土を主体とする。遺物は、カマド北東脇から土師器甕（1・2）が出土している。杯等の出土は見られなかったが、6世紀末～7世紀初めの所産と考えられる。

この他、4トレンチ中央北側及び東側において、竪穴建物跡を確認した。中央北側で確認された竪穴002は、2トレンチでは確認されていないため、一辺4～5m程度の方形を呈すると考えられる。東側において確認された竪穴003は、北西隅部のみの確認であるが、竪穴002とほぼ同規模になると考えられる。竪穴002・003ともに図示する遺物の出土は見られなかったが、覆土は竪穴001と近似する暗黒褐色土を主体としており、いずれも古墳時代後期の所産と考えられる。

調査区北東側の3トレンチ東側において、竪穴001を確認した。南西辺のみの確認である。図示する遺物の出土はなかったが、覆土は4トレンチの竪穴001～003に近似しており、古墳時代後期の所産と考えられる。

1・2トレンチからは、竪穴建物跡等の遺構は確認されず、出土遺物も僅少であったことから、東側から延びる本遺跡の古墳時代後期集落の北西端部に当たると考えられる。

平安時代の集落については、調査区の北東80mに位置する第2地点で確認されており、遺物がほとんど出土しなかった4トレンチ竪穴002及び003、3トレンチ竪穴001の時期が平安時代に下る可能性は排除できない。しかし、調査区内から出土した土器片の時期は古墳時代後期を中心としており、東側に隣接する第1地点の遺構分布状況からみても、古墳時代後期の可能性が高いと考えられる。

参考文献

市原市教育委員会 2009 「椎津向原遺跡」『平成20年度 市原市内遺跡発掘調査報告』

市原市教育委員会 2014 「椎津向原遺跡（第2地点）」『平成25年度 市原市内遺跡発掘調査報告』

椎津向原遺跡（第3地点）

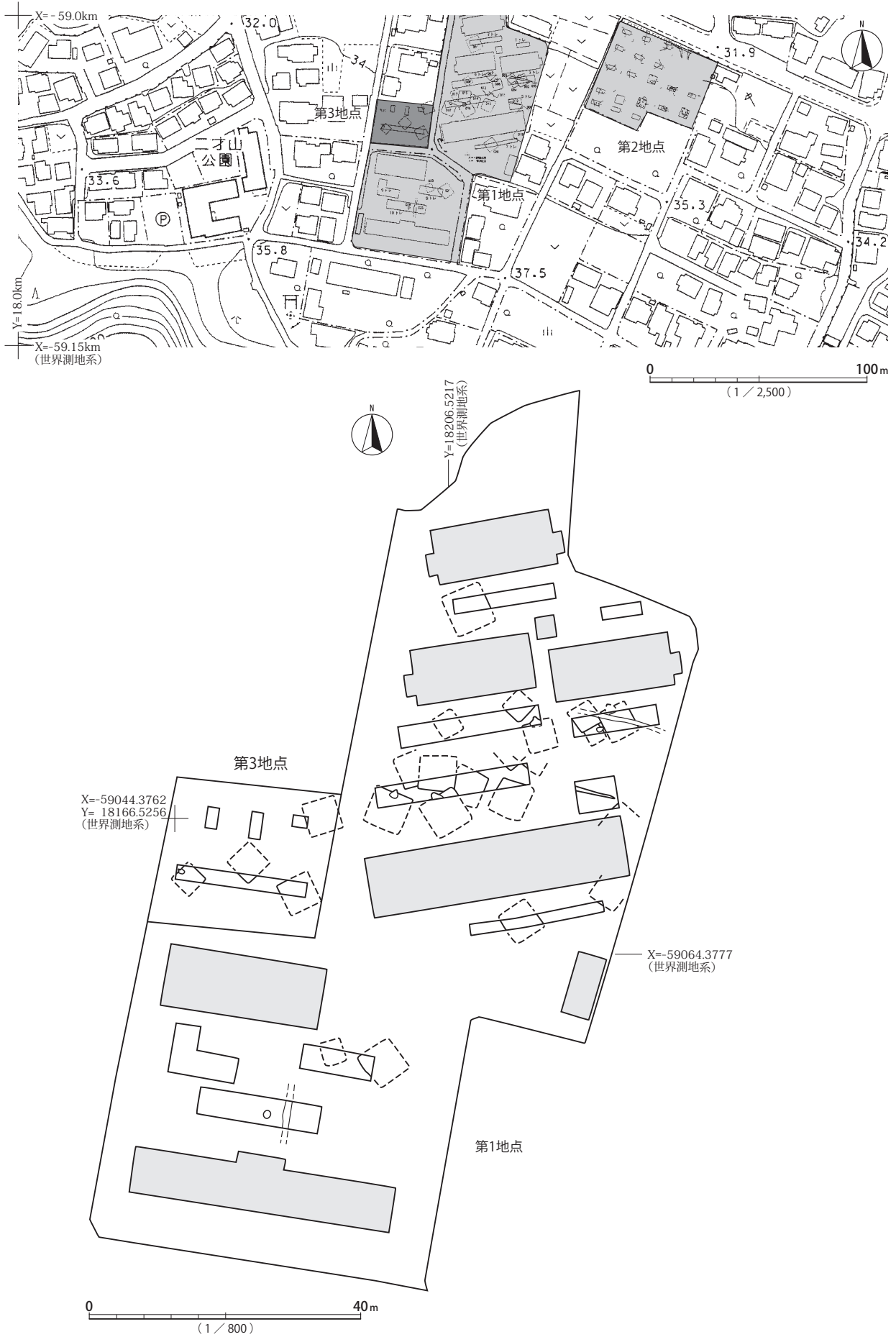


Fig.18 椎津向原遺跡(第3地点) 周辺地形図・全体図

椎津向原遺跡 (第3地点)

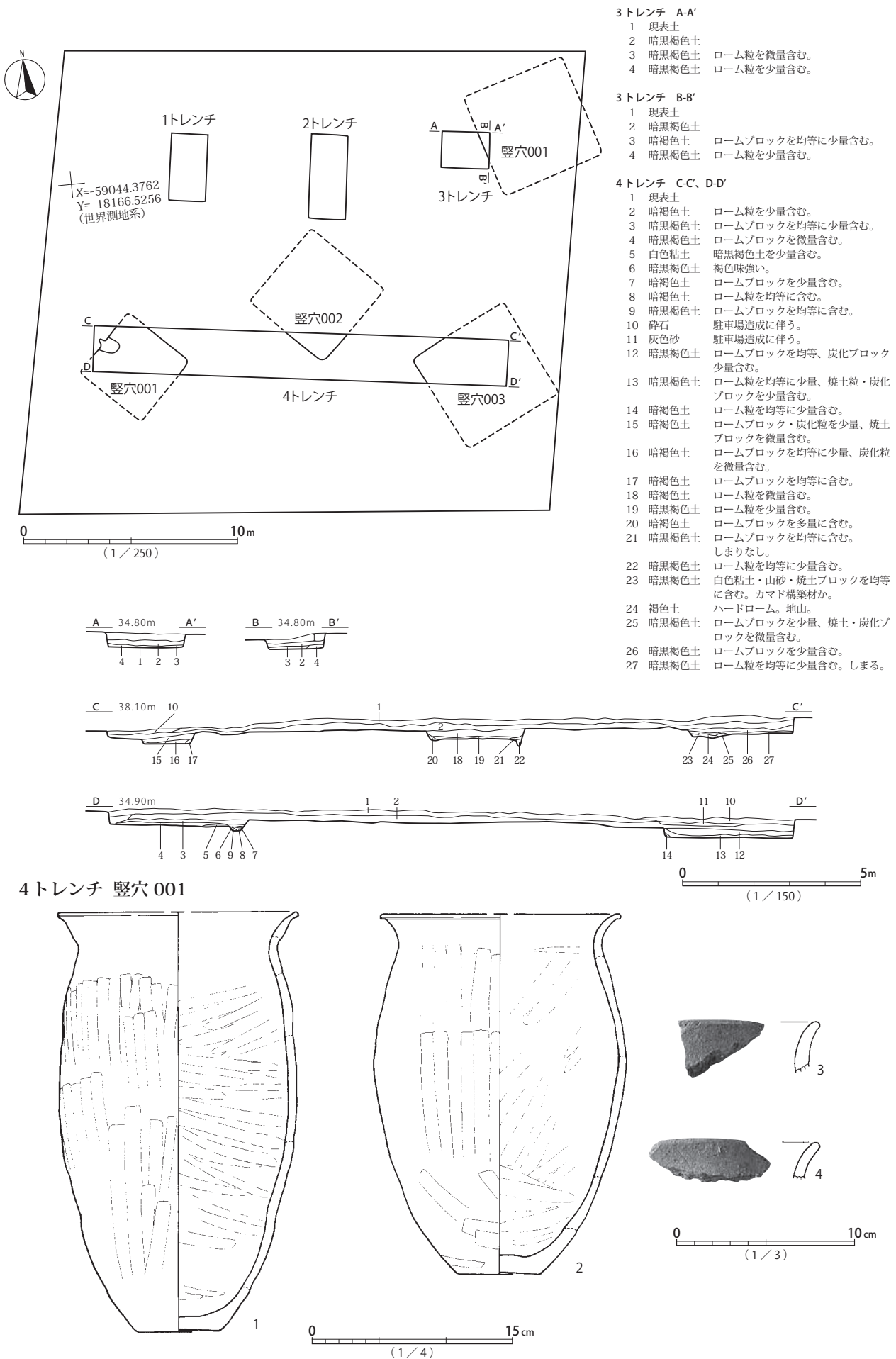


Fig.19 椎津向原遺跡(第3地点) トレンチ配置図・断面図・出土遺物 実測図

Tab.4 出土遺物観察表

凡例：器種の（ ）付きは明確でないものを示す。法量の< >値は復元値、（ ）値は現存値を示す。
 権津城跡（五霊台地区）

種別 No.	遺物 No.	トレンチ No.	遺構 No.	遺構種別	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	現存量	色調 (外/内)	胎土	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)
6	7	1	6		土師器	高杯	ヘラケズリ。赤彩。	脚部ヘラケズリ。	脚部 1/5	淡黄褐色 / 黒色	細砂粒、赤褐色粒を含む		<8.0>		(4.0)
6	7	2	9		土師器	杯	ヘラナデ。	ヘラナデ。	口縁部破片	淡黄褐色 / 淡黄褐色	細砂粒を含む		<14.0>		(3.0)
6	7	3	1		須臾器	裏	タタキ目。	ナデ。		灰色 / 灰色	白色細粒を含む				(1.0)
6	7	4	7		カワラケ	杯	底部ヘラ切り。	ヘラナデ。	底部 1/5	明赤褐色 / 明赤褐色	白色細粒を含む				(1.5)
6	7	5	5		カワラケ	杯	底部静止糸切りのちナデ。	ナデ。	底部 1/4	淡黄褐色 / 灰黒色	白色細粒を含む				(2.0)
6	7	6	7		カワラケ	(鉢)	底部ヘラ切り。	ナデ。	底部 1/7	淡褐色 / 淡褐色	白色細粒をわずかに含む				
6	7	7	4		陶器	羽釜	ナデ。	ナデ。	口縁部破片	黒色 / 黒色	赤褐色・白色細粒をわずかに含む				
6	7	8	4		中世陶器	大甕	全面灰釉。	ナデ。	脚部破片	灰緑色 / 灰色	黒色・白色細粒をわずかに含む	常滑。			
6	7	9	5		中世陶器	大甕	指面成形。	ナデ。	脚部破片	灰色 / 灰色	砂粒・白色細粒をわずかに含む	常滑。			
6	7	10	5		中世陶器	甕	3本の筋状線。	ナデ。	脚部破片	灰褐色 / 淡灰褐色	砂粒・白色細粒をわずかに含む	常滑。			
6	7	11	1		中世陶器	転用底石	一部鉄釉。	ナデ。	完形	灰褐色 / 淡灰褐色	黒色細粒をわずかに含む	常滑。裏破片。断面隆起。			
6	7	12	1		土製品	管状土甕	素焼き。	中央孔筒抜き。		淡褐色 / 淡褐色	砂細粒をわずかに含む	最大長さ2.5cm、最大径1.9cm、重厚7.6g。			
6	7	13	8		石製品	五輪塔(地輪)	被熱彫刻。	整形痕。	3/4	赤褐色		最大幅13.0cm、最大厚6.3cm。			

市原条里制遺跡(古市場川端地区)

種別 No.	遺物 No.	トレンチ No.	遺構 No.	遺構種別	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	現存量	色調 (外/内)	胎土	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	
10	7	1	1		縄文土器	深鉢	口縁部直下4本のキザミ、縁方向の粘土粒と直交する粘土粒入り付。	ミガキ。	口縁部破片	にぶい黄褐色 / にぶい褐色	白色粒・雲母を含む					
10	7	2	1		陶器	転用底石	施釉。	硝煙痕。	破片	灰白色 / 黄灰色	白色・黒色粒を含む	大甕肩部破片。上下底線的な破面。最大長さ10.6cm、最大幅6.2cm。				
10	7	3	4	SX-3	土師器	二重口縁蓋	上部欄干押圧による尖刃粗状文。下部ナデ。	ヘラミガキか。	破片	褐色 / 暗褐色	白色・赤色・黒色粒を含む	内外赤彩か。				
10	6	4	3		陶器	椀	体部回転ヘラケズリ。底部回転糸切後、高台部を削り出し。底部鉄釉。	鉄釉。	底部完形	にぶい黄褐色 / 赤黒色	白色・黒色微粒を多く含む					
10	7	5	1	SX-1	中世陶器	指鉢	体部鉄釉。底部回転糸切無調整。底部鉄釉。	鉄釉。	破片	暗赤褐色 / 灰赤色	灰白色・黒色微粒をわずかに含む	内面底部付近、明瞭な使用痕。				
10	7	6	1	SX-1	中世陶器	裏	鉄行刺。	三又トナリ根。高台部に外に鉄軸出し。	破片	褐色 / 黄灰色	白色粒を含む				(14.4)	
10	6	7	3	SK-1	陶器	椀	底部糸切りのち、高台部を削り出し。	ほぼ完形	破片	灰褐色 / 黒褐色	黒褐色微粒を多く含む		10.1	5.2	3.9	
10	7	8	1	SX-1	中世陶器	指鉢	鉄軸ハケ塗り。	鉄軸ハケ塗り。17〜18本1組の掃り目は、間隔に広狭あり。	破片	褐色 / 黄褐色	赤色微粒をわずかに含む				<12.6>	
10	7	9	1	SX-1	中世陶器	指鉢	ナデ。	交差しない7本1組の掃り目。	破片	黄灰色 / 灰白色	白色・黒色微粒を少量含む、海細骨針も混じる	内面明瞭な使用痕。				<9.4>
10	6	10	7	SK-3	カワラケ	皿	ロクロ。	底部外面回転糸切り無調整。	2/3	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	黒色・灰色微粒を多く含む、海細骨針もわずかに混じる				4.0	1.6
10	6	11	1	SX-1	土師器	高杯	ヘラケズリのちナデ。赤彩。	横方向のヘラナデ。	脚部 1/4	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色						(3.8)
10	7	12		SX-1	木製品	(下駄)	下駄か。突出部断面は、左右不均等台形。穿孔なし。		破片			スズカ。表面劣化。最大長さ12.9cm、最大幅5.8cm、最大厚3.1cm。				
10	7	13		SX-1	木製品	板状			破片			スズカ。最大長さ11.0cm、最大幅7.0cm、最大厚1.4cm。				
10	7	14		SX-4	木製品	板状			破片			スズカ。最大長さ9.8cm、最大幅2.8cm、最大厚0.55cm。				
10	7	15	1	SX-1	木製品	棒状	断面方形の棒状品。		破片			スズカ。最大長さ28cm、最大幅2.5cm、最大厚1.7cm。				
10	8	16	1		鉄製品	釘			破片			最大長さ5.2cm、最大幅0.6cm、最大厚0.7cm。				

神図 No.	陶器 No.	遺物 No.	トレンチ No.	遺構 No.	遺構種別	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	現存量	色調 (外/内)	胎土	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)
10	8	17	1	SX-1	溝式遺構	眼骨	ワム (中手骨)	並用で工整な整形。地輪頸部が2面の一部分が遺存。		中間～遺位端			鋭利な刃物による解体痕。安山岩片。最大長6.8cm、最大幅6.9cm、最大厚3.4cm。			
10	8	18	4	SX-1	溝式遺構	石製品	五輪塔 (地輪)			破片			側面に脚輪状突起。最大長6.4cm、最大幅2.5cm、最大厚1.7cm。			
10	8	19	1			石製品	砥石			破片			安山岩片。縦11.8cm、横10.5cm、高さ15.7cm。			
10	8	20	7			石製品	宝篋印塔 (塔身)	尖地不明確。文字は認められない。4面に窓を付ける。		ほぼ完形			最大長13.7cm、最大幅3.3cm、最大厚4.5cm。			
10	8	21	1	SX-1	溝式遺構	石製品	砥石	右側面に明瞭な使用痕。		ほぼ完形			右側面以外に脚輪状突起。最大長15.0cm、最大幅3.4cm、最大厚2.6cm。			
10	8	22	1			石製品	砥石	右側面に明瞭な使用痕。		ほぼ完形			安山岩片。縦17.1cm、横16.7cm、高さ10.3cm。			
10	8	23	4	SX-1	溝式遺構	石製品	五輪塔 (地輪)	側面平坦。上面凸レンズ状で中央部平坦。下面凹レンズ状で凹凸者しい。		完形						

海士遺跡群・蟻木城跡

神図 No.	陶器 No.	遺物 No.	トレンチ No.	遺構 No.	遺構種別	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	現存量	色調 (外/内)	胎土	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)
13	8	001-1		竪穴遺物	土師器	杯	口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。強いヘラナデ。赤彩。	口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。強いヘラナデ。赤彩。	口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。強いヘラナデ。赤彩。	口縁～体部下端 1/10	褐色 / 褐色	赤褐色粒を少量含む	一部赤色顔料付着。	<15.0>		
13	8	001-2		竪穴遺物	カワラケ	皿	口縁調整。	口縁調整。	口縁調整。	口縁～体部下端 1/10	褐色 / 褐色	赤褐色粒を均等に少量含む		<12.8>		
13	8	001-3		竪穴遺物	土師器	杯	口縁調整。底部回転糸切り無調整。	口縁調整。	口縁調整。	体部上半～底部 1/10	にぶい褐色 / 褐色	赤褐色粒をわずかに含む		<7.4>		
13	8	001-4		竪穴遺物	須恵器	蓋	口縁調整。天井部回転ヘラケズリ。	口縁調整。	口縁調整。	天井部～かえり部 3/5	黄灰色 / 黄灰色	白色粒を少量含む	永田・不入窯か。	<18.6>		
13	8	001-5		竪穴遺物	土師器	甕	胴部ヘラナデ。一部ハケ目。底部凹形底。	ヘラナデ。	ヘラナデ。	胴部下端～底部 1/10	赤褐色 / 明赤褐色	白色粒を少量含む		<5.8>		
13	8	001-6		竪穴遺物	土師器	甕	ヘラケズリ。ヘラナデ。	ヘラナデ。	ヘラナデ。	胴部下端～底部 1/10	黒褐色 / 明赤褐色	白色粒をわずかに含む		<6.0>		
13	8	002-1		竪穴遺物	土師器	杯	ナデ。強いヘラナデ。	ナデ。強いヘラナデ。	ナデ。強いヘラナデ。	口縁～体部下端 1/8	褐色 / 褐色	石炭粒をわずかに含む		<12.0>		
13	8	002-2		竪穴遺物	土師器	杯	口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体部斜格子状の暗文。	口縁部ヨコナデ。体部斜格子状の暗文。	口縁～体部下端 1/10	褐色 / にぶい褐色	白色粒を少量含む	上総製杯。	<15.8>		
13	8	002-3		竪穴遺物	土師器	杯	ヘラケズリ。	体部斜格子状の暗文。	体部中央～底部 1/10	褐色 / 褐色	褐色粒を少量含む、白色針状物もわずかに混じる		上総製杯。002-2 とは別個体。			
13	8	002-4		竪穴遺物	土師器	器台	ヘラナデ。ヘラミガキ。	ヘラナデ。ヘラミガキ。赤彩。	ヘラナデ。ヘラミガキ。赤彩。	器受部～胴部上端 3/7	赤褐色 / 暗赤褐色	黒色粒を少量含む		<7.3>		
13	6	002-5		竪穴遺物	土師器	高杯	胴部ヘラケズリ。裾部ヨコナデ。赤彩。	胴部内面ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	胴部内面ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	胴部 2/3	赤色 / 褐色	赤褐色粒を少量含む				
13	8	002-6		竪穴遺物	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。口縁～頸部ハケ目。	口縁部ヨコナデ。口縁～頸部ハケ目。	口縁部ヨコナデ。口縁～頸部ハケ目。	口縁～頸部 1/10	黒褐色 / 明赤褐色	白色粒を少量含む		<16.2>		
13	8	002-7		竪穴遺物	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。一部ハケ目。	ハケ目。	ハケ目。	口縁部 1/10	黒褐色 / 明赤褐色	白色粒を少量含む		<15.1>		
13	8	002-8		竪穴遺物	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。輪量みだ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁～胴部上端 1/10	褐色 / 褐色	白色粒を少量含む		<15.8>		
13	6	002-9		竪穴遺物	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。胴部縦位のヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部縦位のヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部縦位のヘラケズリ。	口縁～胴部下端 2/3	赤褐色 / 灰赤色	小礫均等に少量含む	胴部上半部に径5～6mmの焼成後穿孔。	23.0		
13	8	002-10		竪穴遺物	土師器	甕	胴部下端ナデ。一部ヘラナデか。底部凹み底。	ヘラナデ。	ヘラナデ。	底部 1/2	褐色 / 褐色	赤褐色粒を少量含む		<6.0>		
13	8	002-11		竪穴遺物	土師器	甕	ヘラナデ。一部ハケ目状痕。	ヘラナデ。	ヘラナデ。	胴部下半～底部 1/3	赤褐色 / 黒褐色	白色粒を少量含む		<5.8>		
13	8	002-12		竪穴遺物	土師器	甕	ヘラナデ。	ヘラナデ。やや強いヘラナデ。	ヘラナデ。やや強いヘラナデ。	胴部下半～底部 1/10	にぶい赤褐色 / 灰褐色	赤褐色粒を均等に含む		<5.0>		
13	8	002-13		竪穴遺物	土師器	甕	ヘラナデ。	ヘラナデ。	ヘラナデ。	胴部下半～底部 1/8	赤褐色 / 黒褐色	白色粒・白色針状物をわずかに含む		<6.2>		
13	8	002-14		竪穴遺物	土師器	甕	ヘラナデ。	ヘラナデ。	ヘラナデ。	胴部下半～底部 1/6	明赤褐色 / 明赤褐色	黒色粒を均等に少量含む		<7.4>		
13	8	002-15		竪穴遺物	弥生土器	甕	口縁部斜線状。口縁下部細文。原形による刻み目。	強いヘラナデ。	強いヘラナデ。	口縁部破片	明赤褐色 / 赤褐色	小礫・白色針状物をわずかに含む				

図面 No.	器種 No.	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	現存量	色調 (外/内)	胎土	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)
13 8	002-16	弥生土器	壺	口縁部緑文帯。口縁下部細文帯による須弥目。	ヘラナデ。	口縁部破片	浅黄褐色 / にぶい、黄褐色	黒色粒をわずかに含む				
13 8	002-17	弥生土器	浅鉢	細文帯による須弥目を施す隆帯の直下、竹管状工具による連続刺突文。	ヘラナデ。一部ハケ目状痕。	胴部破片	灰褐色 / 褐色	白色粒をわずかに含む				
13 8	002-18	弥生土器	深鉢	断面緩い三角状の隆帯直下に、角状文状の残痕。	ナデ	胴部破片	褐色 / にぶい、褐色	白色粒を均等に含む				
13 6	003-1	弥生土器	杯	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部破片	褐色 / 黄褐色	赤褐色粒を少量含む	内面麻布状の布目痕。袋等の圧痕あり。	14.0	5.5	
13 6	003-2	弥生土器	杯	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。赤彩。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。赤彩。	口縁部破片	赤色 / 赤色	黒色粒を均等に少量含む		<13.8>	(4.9)	
13 6	003-3	弥生土器	杯	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部破片	褐色 / 褐色	赤褐色粒を少量含む		<14.8>		
13 9	003-4	弥生土器	高杯	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。赤彩。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。赤彩。	杯部破片	赤色 / 褐色	黒色粒を均等に少量含む	内面皿部に赤色顔料残存。	<13.2>		
13 9	003-5	弥生土器	(高杯)	ヨコナデ。	ヨコナデ。裾部一部ヘラナデ。	胴部破片	褐色 / 褐色	黒色粒をわずかに含む		<7.8>		
13 9	003-6	弥生土器	壺	折返し口縁。口縁部ヨコナデ。胴部ハケ目痕一部残存あり。	ヨコナデ。	口縁部破片	褐色 / 褐色	白色粒をわずかに含む		<14.0>		
13 9	003-7	弥生土器	罍	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。	口縁部破片	褐色 / 褐色	黒色粒を均等に少量含む	口縁部コノ字状。	<19.8>		
13 6	003-8	弥生土器	小型罍	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部破片	褐色 / にぶい、褐色	黒色粒を均等に少量含む		<13.8>	6.8	11.5
13 9	003-9	弥生土器	罍	ヘラナズリ。	ヘラナデ。一部ハケ目痕。	胴部下半部破片	褐色 / にぶい、褐色	小礫をわずかに含む		<6.0>		
13 9	003-10	弥生土器	罍	ヘラナズリ。	ヘラナデ。	胴部下半部破片	褐色 / 灰褐色	白色粒を少量含む、白色針状物もわずかに混じる		<6.8>		
13 9	003-11	弥生土器	浅鉢	口縁部折状細文帯。	ヘラナデ。	口縁部破片	褐色 / 褐色	赤褐色粒を少量含む				
13 9	003-12	弥生土器	壺	折返し口縁。口縁部緑文帯。	ナデ。	口縁部破片	褐色 / 褐色	赤褐色粒を少量含む	003-13 と同一個体。			
13 9	003-13	弥生土器	壺	折返し口縁。口縁部緑文帯。	ナデ。	口縁部破片	褐色 / にぶい、黄褐色	赤褐色粒を少量含む	003-12 と同一個体。			
13 9	003-14	弥生土器	壺	連山形文区画内に羽状細文。無文部ヘラミミガキ。	ナデ、ヘラナデ。	胴部破片	灰褐色 / 褐色	黒色粒をわずかに含む	連山形文上脚の無文部赤彩あり。			
13 9	003-15	弥生土器	壺	練土工具による連続刺突文区画内に羽状細文。無文部赤彩。	ヘラミミガキ、赤彩。	胴部破片	にぶい、褐色 / 赤色	白色粒をわずかに含む				
13 9	003-16	弥生土器	深鉢	RL 斜網文のち、沈線区画外を磨出し。	ナデ。	胴部破片	暗赤褐色 / 暗赤褐色	白色粒を均等に少量含む				
13 9	003-17	弥生土器	深鉢	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	ナデ。	胴部破片	褐色 / 褐色	黒色粒を少量含む				
13 9	003-18	弥生土器	支脚	ナデ、ユビナデ、一部ヘラナズリ。	ナデ。	胴部破片	褐色	黒色粒を少量含む	現存量 6.7cm。現存幅 7.7cm			
13 6	004-1	弥生土器	杯	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。一部やや強いヘラナデあり。赤彩。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。やや強いヘラナデ。赤彩。	口縁部下半部破片	褐色 / 赤色	赤褐色粒を少量含む		<14.2>		
13 6	004-2	弥生土器	杯	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部破片	褐色 / 褐色	褐色粒を少量含む	外面一部黒斑。	<12.4>	(3.9)	
13 6	004-3	弥生土器	高杯	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。赤彩。	口縁部ヨコナデ。杯部・胴部ヘラナデ。杯部内面及び胴部の一部赤彩。	杯部破片	赤色 / 褐色	黄褐色粒を均等に少量含む		<12.8>	<8.0>	8.8
13 6	004-4	弥生土器	高杯	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。赤彩。	口縁部ヨコナデ。杯部ヘラナデ。赤彩。	杯部破片	赤色 / 赤色	黒色粒を均等に少量含む		<14.6>		
14 6	004-5	弥生土器	高杯	胴部ヘラケズリ。裾部ヨコナデ。赤彩。	胴部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。赤彩。	胴部破片	赤色 / 黒褐色	石炭粒をわずかに含む				
14 6	004-6	弥生土器	罍	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部破片	にぶい、赤褐色 / 黒褐色	白色粒を少量含む	内面胴部付近、輪郭み盛一部残存。	15.8	4.6	27.2
14 6	004-7	弥生土器	罍	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部破片	褐色 / 明赤褐色	白色粒を均等に少量含む		17.0		
14 6	004-8	弥生土器	罍	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。胴部上半部に輪郭み盛。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。胴部上半部に輪郭み盛。	口縁部破片	褐色 / 褐色	小礫をわずかに含む		16.2		
14 6	004-9	弥生土器	小型罍	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。一部輪郭み盛。	口縁部破片	褐色 / にぶい、褐色	赤褐色粒を少量含む	外面麻布状の布目痕。	<14.8>	<6.8>	17.8

種別 No.	遺物 No.	トレンチ No.	遺構 No.	遺構種別	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	現存量	色調(外/内)	胎土	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)
14	9	004-10	竪穴004	竪穴建物	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。わずかに輪積み痕。 口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。	口縁-胴部 1/10	褐色 / 褐色	黒色粒を少量含む		<15.8>		
14	9	004-11	竪穴004	竪穴建物	土師器	甕	口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	口縁-胴部下半 1/6	明赤褐色 / にぶい赤褐色	白色粒をわずかに含む		<22.4>		
14	9	004-12	竪穴004	竪穴建物	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁-胴部上半 1/6	褐色 / 褐色	小礫をわずかに含む		<19.6>		
14	9	004-13	竪穴004	竪穴建物	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁-胴部上半 1/6	褐色 / 明赤褐色	赤色粒・白色針状物をわずかに含む		<19.6>		
14	9	004-14	竪穴004	竪穴建物	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁-胴部上半 1/8	褐色 / 褐色	赤色粒を均等に少量含む		<20.8>		
14	9	004-15	竪穴004	竪穴建物	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。	口縁-胴部 1/10	褐色 / 褐色	黒色粒を少量含む		<22.6>		
14	9	004-16	竪穴004	竪穴建物	土師器	(台付甕)	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁-胴部 1/6	褐色 / 灰褐色	小礫をわずかに含む		<11.6>		
14	9	004-17	竪穴004	竪穴建物	土師器	甕	ヘラナデ。	ヘラナデ。	胴部下半-底部 1/2	明赤褐色 / 褐色	黒色粒を少量含む		<20.6>		<7.0>
14	9	004-18	竪穴004	竪穴建物	須恵器	甕	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁-胴部 1/10	褐色 / 褐色	黒色粒を少量含む	焼成不良。	<20.6>		
14	9	004-19	竪穴004	竪穴建物	弥生土器	甕	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	胴部破片	褐色 / 褐色	石炭粒・白色針状物をわずかに含む				
14	9	一括-1		竪穴建物	土師器	杯	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁-底部 1/8	褐色 / 褐色	粗い白色粒を少量含む		<12.8>		4.1
14	9	一括-2		竪穴建物	土師器	杯	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	底部 4/5	黄灰色 / 黄灰色	白色粒を少量含む	永田・不入家か。		(9.2)	
14	9	一括-3		竪穴建物	土師器	台付甕	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	胴部下半-底部 1/4	褐色 / にぶい褐色	粗い白色粒を均等に少量含む			<8.8>	
14	6	一括-4		竪穴建物	弥生土器	甕	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	胴部下半-底部 1/2	赤色 / 褐色	粗い白色粒を均等に少量含む	内面剥落。		10.0	
14	9	一括-5		竪穴建物	弥生土器	(浅鉢)	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部破片	褐色 / にぶい褐色	赤色粒をわずかに含む				
14	9	一括-6		竪穴建物	弥生土器	甕	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	胴部破片	にぶい褐色 / 黒褐色	赤色粒をわずかに含む				
14	9	試掘-1		竪穴建物	弥生土器	甕	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	胴部上半-中位 1/10	にぶい褐色 / 褐色	粗い赤色粒・白色針状物をわずかに含む				

姉崎台城跡

種別 No.	遺物 No.	トレンチ No.	遺構 No.	遺構種別	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	現存量	色調(外/内)	胎土	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)
15	9	1			細文土器	深鉢	ヨコナデ。	ヨコ方向のミガキ。	口縁部破片	黒色 / 明褐色	灰色・黄褐色を多く含む				
15	9	2			細文土器	浅鉢	口縁部斜方向の穴開区画2条。区画内にLR細文。	ミガキ。	口縁部破片	にぶい黄褐色 / 黒色	黄褐色微粒を少量含む				
15	9	3			細文土器	深鉢	斜細文を地文に、沈線を加える。	ミガキか。	破片	灰褐色 / にぶい褐色	黒色・黄褐色微粒を少量含む				
15	9	4			弥生土器	甕	口縁部折頭交押片。	ミガキか。	口縁部破片	黄褐色 / にぶい黄褐色	白色・黒色微粒を少量含む				
15	9	5			弥生土器	(甕)	格子叩き。	ナデか。	底部 1/3 破片	にぶい黄褐色 / 灰褐色	黄褐色・黒色微粒を多量に含む			<5.6>	
15	9	6			須恵器	(甕)	格子叩き。	ヘラナデ。	破片	褐灰色 / 褐灰色	白色粒を含む				
15	9	7			埴輪	(円筒)	縦方向のハケ目。タガの上下ヨコナデ。	縦方向ヘラナデ。	破片	褐色 / 褐色	灰色・黒色微粒を多く含む。白色小粒もわずかに混じる				
15	9	8			埴輪	(円筒)	縦方向のハケ目。	縦-斜方向のヘラナデ。	破片	褐色 / 褐色	黒色・黒色微粒、海綿骨針をわずかに含む	断面中央部黒色。			
15	9	9			埴輪	(円筒)	縦方向のハケ目。	縦-斜方向のヘラナデ。	破片	褐色 / 褐色	黒色微粒を多く含む。白色小粒もわずかに混じる	断面中央部黒色。			

権津向原遺跡(第3地点)

種別 No.	遺物 No.	トレンチ No.	遺構 No.	遺構種別	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	現存量	色調(外/内)	胎土	備考	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)
19	7	1	竪穴001	竪穴建物	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁-底部 3/7	褐色 / 褐色	小礫を少量含む		<17.8>	<6.0>	31.3
19	7	2	竪穴001	竪穴建物	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁-底部 3/7	にぶい褐色 / にぶい褐色	小礫を均等に少量含む		<17.6>	<6.1>	26.9
19	3	4	竪穴001	竪穴建物	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。	口縁部破片	にぶい赤褐色 / 明赤褐色	白色粒をわずかに含む				
19	4	4	竪穴001	竪穴建物	土師器	甕	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。	口縁部破片	明赤褐色 / 明赤褐色	小礫を少量含む				



調査前



調査風景



1トレンチ 遺構検出



4トレンチ 遺構検出



5トレンチ 遺構検出



8トレンチ 遺構検出



9トレンチ 遺構検出



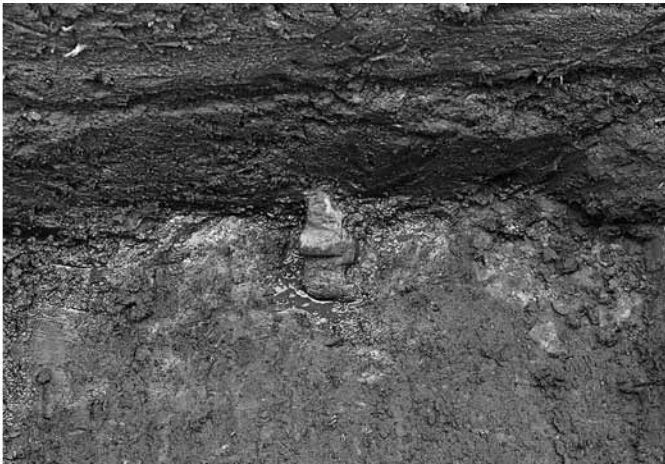
12トレンチ 遺構検出



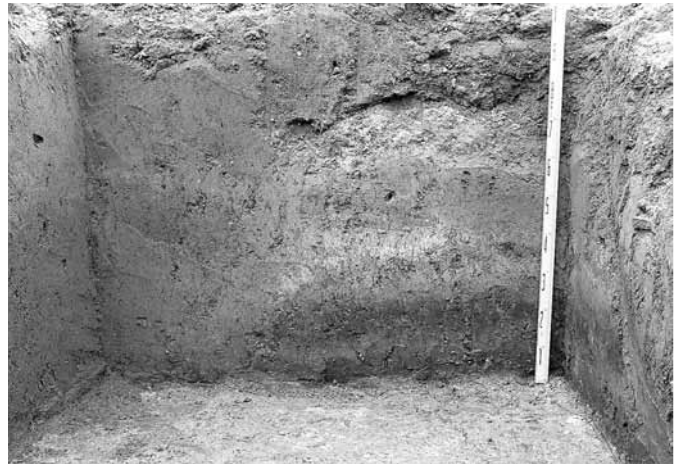
調査風景



1トレンチ 遺物出土



1トレンチ SX-1遺物出土



4トレンチ 土層断面



4トレンチ SX-1検出



4トレンチ SX-1遺物出土



3トレンチ SK-1検出



3トレンチ SK-1貝ブロック・遺物出土



調査前



遺物出土



竪穴001 全景



竪穴002 全景



竪穴002 カマド



調査風景



全景



全景



調査区遠景



調査前



1トレンチ



1トレンチ 遺物出土



2トレンチ



3トレンチ



調査風景



調査区と姉崎天神山古墳



調査前



調査区と東京湾



3トレンチ 竪穴001検出



4トレンチ 竪穴001検出



4トレンチ 竪穴001カマド検出



4トレンチ 竪穴001遺物出土



4トレンチ 竪穴002・003検出



調査区全景



市原条里制遺跡-4



海土遺跡群・蟻木城跡 豎穴003-2



海土遺跡群・蟻木城跡 豎穴004-5



市原条里制遺跡-7



海土遺跡群・蟻木城跡 豎穴003-3



市原条里制遺跡-10



海土遺跡群・蟻木城跡 豎穴003-8



海土遺跡群・蟻木城跡 豎穴004-6



市原条里制遺跡-11



海土遺跡群・蟻木城跡 豎穴004-1



海土遺跡群・蟻木城跡 豎穴002-5



海土遺跡群・蟻木城跡 豎穴004-2



海土遺跡群・蟻木城跡 豎穴004-7



海土遺跡群・蟻木城跡 豎穴002-9



海土遺跡群・蟻木城跡 豎穴004-3



海土遺跡群・蟻木城跡 豎穴004-8



海土遺跡群・蟻木城跡 豎穴003-1



海土遺跡群・蟻木城跡 豎穴004-4



海土遺跡群・蟻木城跡 豎穴004-9



海土遺跡群・蟻木城跡 一括-4

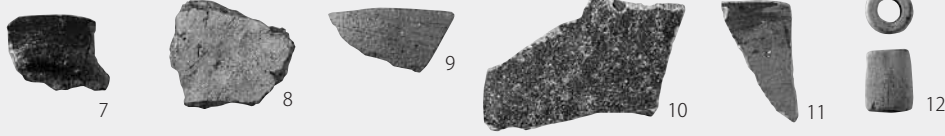
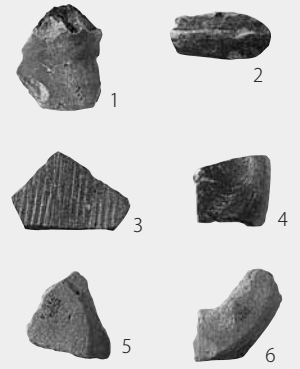


椎津向原遺跡 4トレンチ 竪穴001-1

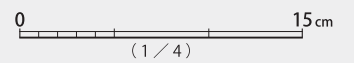
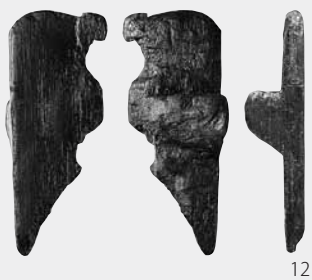
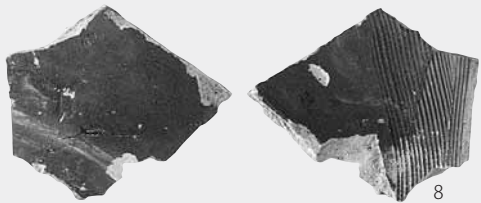
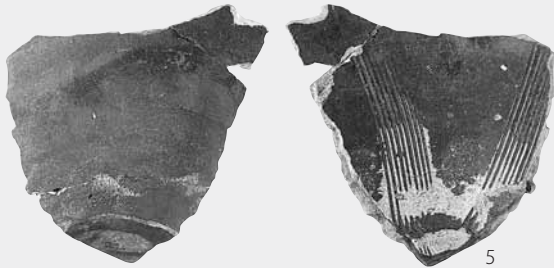


椎津向原遺跡 4トレンチ 竪穴001-2

椎津城跡（五霊台地区）



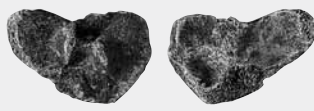
市原条里制遺跡（古市場川端地区）



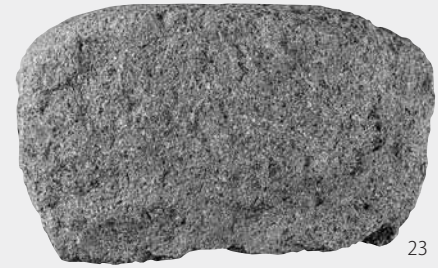
市原条里制遺跡（古市場川端地区）

ウマ

ウシ



脛骨(R)
未癒合近位骨端



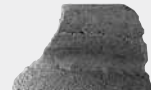
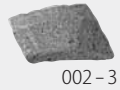
0 10cm
(1/3)

海土遺跡群・蟻木城跡

竪穴 001



竪穴 002

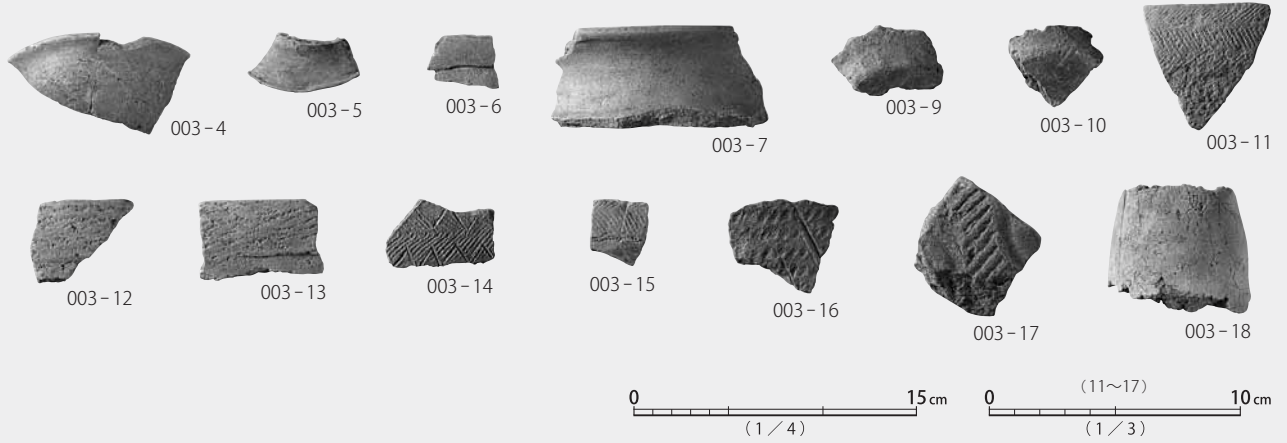


0 10cm
(15~18)
(1/3)

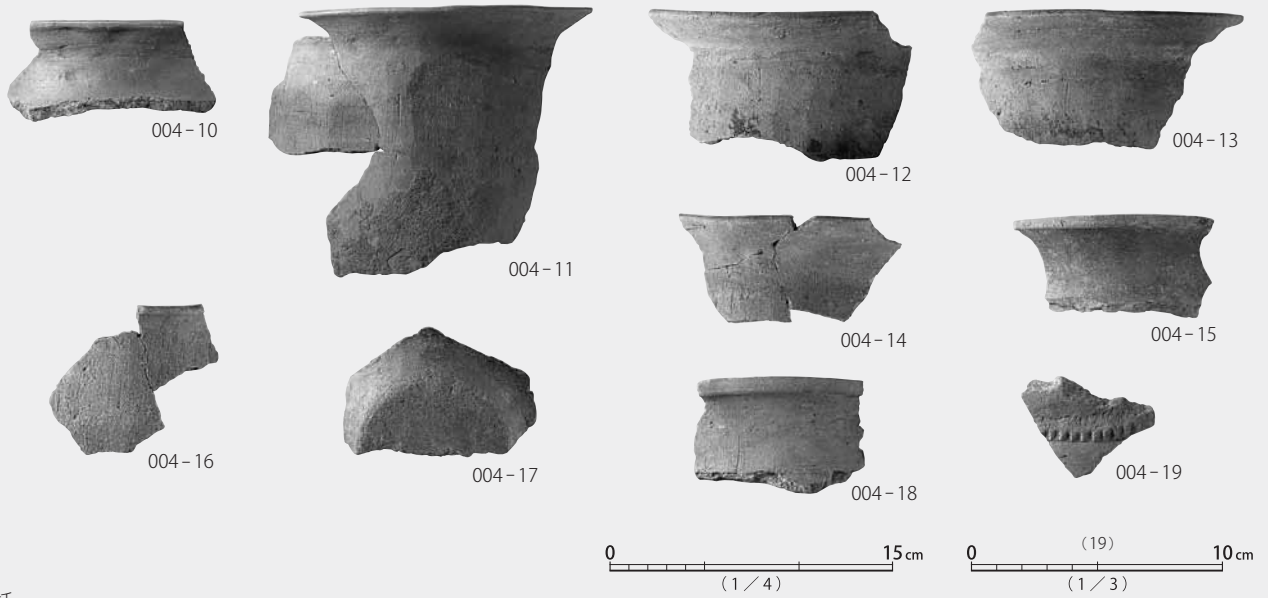
0 15cm
(1/4)

海土遺跡群・蟻木城跡

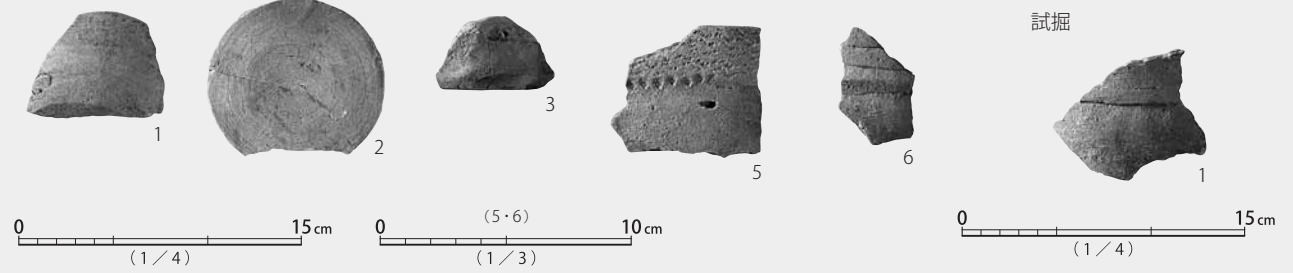
竪穴 003



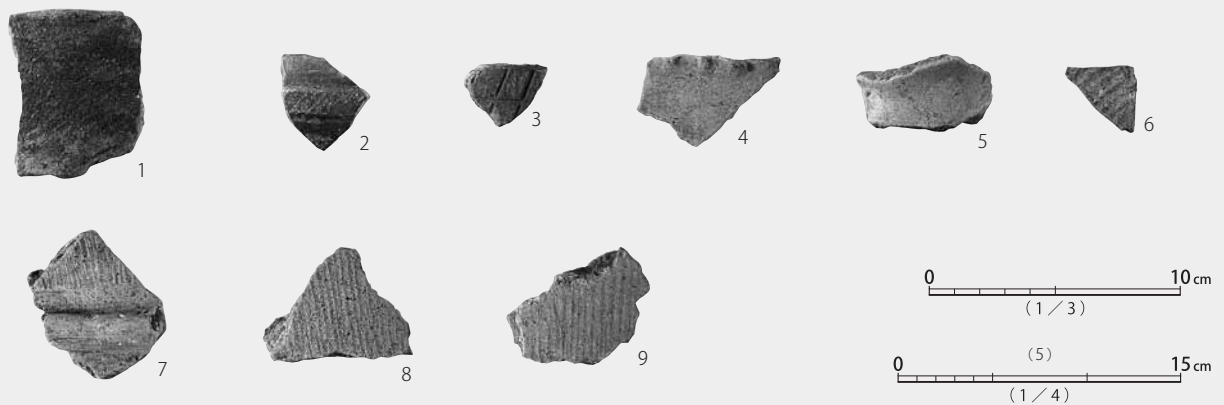
竪穴 004



一括



姉崎台城跡



報告書抄録

ふりがな	へいせい27ねんど いちはらしなしいせきはつくつちょうさほうこく							
書名	平成27年度 市原市内遺跡発掘調査報告							
副書名	椎津城跡(五霊台地区)、市原条里制遺跡(古市場川端地区)、海土遺跡群・蟻木城跡、姉崎台城跡、椎津向原遺跡(第3地点)							
巻次								
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書							
シリーズ番号	第37集							
編著者名	近藤 敏・北見一弘・小川浩一・鶴岡英一							
編集機関	市原市教育委員会(市原市埋蔵文化財調査センター)							
所在地	〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地 TEL 0436(41)9000							
発行年月日	2016年(平成28年)3月18日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
しいづじょうあと(ごりょうだいちく) 椎津城跡(五霊台地区)	ちばけんいちほらししいづ 千葉県市原市椎津 633番1、633番2、633番3	12219	316	35° 28′ 06″	140° 02′ 10″	20150106 ～ 20150129	212㎡/2,015㎡ (確認調査)	宅地造成
いはらじょうりせいいせき 市原条里制遺跡 (ふるいちばかわばたちく) (古市場川端地区)	ちばけんいちほらしふるいちばあざかわばた 千葉県市原市古市場字川端 188番1、188番2、189番	12219	812	35° 32′ 37″	140° 08′ 36″	20150616 ～ 20150626	101.24㎡/1,189㎡ (確認調査)	宅地造成
あまいせきぐん・ありきじょうあと 海土遺跡群・蟻木城跡	ちばけんいちほらしあまありきあざうえのだい 千葉県市原市海土有木字上ノ台 1,422番1	12219	576・ 574	35° 28′ 44″	140° 07′ 50″	20150707 ～ 20150730	42㎡ (本調査)	個人住宅建設
あねさきだいじょうあと 姉崎台城跡	ちばけんいちほらしあねさきあざごんげんどう 千葉県市原市姉崎字権現堂 2,442番1	12219	1002	35° 28′ 27″	140° 03′ 11″	20151207 ～ 20151216	49.8㎡/498.8㎡ (確認調査)	長屋住宅新築
しいづむかいばらいせき 椎津向原遺跡 (だい3ちてん) (第3地点)	ちばけんいちほらししいづあざむかいばら 千葉県市原市椎津字向原 998番11	12219	303	35° 28′ 03″	140° 02′ 01″	20151217 ～ 20151222	52㎡/520.62㎡ (確認調査)	集合住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
椎津城跡(五霊台地区)	城館跡	中世		中世区画墓、溝状遺構2条、地下式坑4基、土坑21基、柱穴状遺構・小ピット多数		古墳時代土師器、中世カワラケ・陶器・鉄製品・石造物片		調査区は椎津城跡の最南端部に当たり、中世の区画墓域が検出された。
市原条里制遺跡(古市場川端地区)	条里、水田跡、貝塚	中近世		中世後期～近世土坑2基・溝状遺構2条、時期不明土坑6基・溝状遺構2条		縄文土器、古墳時代土師器、中世陶器・石塔、中近世土器・陶器・木製品・砥石・獣骨		調査区は自然堤防上に位置し、中世後期から近世初頭の生活痕跡が検出された。
海土遺跡群・蟻木城跡	包蔵地、城館跡	古墳時代 奈良・平安時代		古墳時代後期堅穴建物跡3棟、奈良・平安時代堅穴建物跡1棟		弥生土器、古墳時代土師器、奈良・平安時代土師器・須恵器		調査区は微高地上に位置し、激しく重複する古墳時代から奈良・平安時代の堅穴建物跡が検出された。
姉崎台城跡	城館跡	縄文時代 弥生時代 古墳時代		時期不明ピット2基		縄文土器、弥生土器、古墳時代土師器・須恵器・円筒埴輪		調査区は千葉県指定史跡の姉崎天神山古墳に隣接する。円筒埴輪の出土から、周囲に埴輪を伴う古墳の存在が想定された。
椎津向原遺跡(第3地点)	包蔵地	古墳時代		古墳時代後期堅穴建物跡4棟		古墳時代土師器		調査区は台地縁辺部に位置し、台地中央部から広がる古墳時代後期の集落跡が確認された。
要約	<p>今年度は、市内に所在する6遺跡について発掘調査を行い、このうち4遺跡に昨年度末に調査を行った1遺跡を加えて、5遺跡を報告した。椎津城跡(五霊台地区)は城跡の最南端部に当たり、城郭遺構は検出されなかったが、中世の区画墓域が検出され、近世以降細地化したことが確認された。市原条里制遺跡(古市場川端地区)は遺跡北端部の自然堤防上に位置し、河川氾濫等の痕跡と中世後期から近世初頭の生活痕跡が確認された。海土遺跡群・蟻木城跡は微高地上に位置し、近隣の調査成果と併せて、周辺に弥生時代から奈良・平安時代の遺構群が濃密に分布することが確認された。姉崎台城跡の調査区は千葉県指定史跡の姉崎天神山古墳に隣接している。城跡や姉崎天神山古墳に直接かかわる遺構や遺物は検出されなかったが、調査区南側の宝蔵寺古墳群由来と考えられる円筒埴輪片が出土した。椎津向原遺跡(第3地点)は遺跡範囲の縁辺部に位置し、隣接地調査で確認された古墳時代後期の集落跡が本地点まで広がることが確認された。</p>							

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第37集

平成27年度 市原市内遺跡発掘調査報告

平成28年3月18日 発行

編 集 市原市埋蔵文化財調査センター
千葉県市原市能満1489
TEL 0436(41)9000

発 行 市原市教育委員会
千葉県市原市国分寺台中央1-1-1
TEL 0436(22)1111

印 刷 株式会社 正文社
千葉県千葉市中央区都町1-10-6
TEL 043(233)2235